

沖縄県立博物館年報

No. 11



1978

沖縄県立博物館

目 次

序	館長 外間正幸
沿革	(1)
日誌	(2)
施設・設備	(6)
事業	(8)
1. 展示	(8)
2. 調査・研究活動	(13)
3. 資料収集活動	(16)
4. 資料整理	(17)
5. 資料保存・修理	(18)
6. 教育普及活動	(18)
入館者数	(22)
資料	(25)
1. 収蔵資料現在高	(25)
2. 昭和52年度収蔵資料	(25)
3. 新収蔵資料内訳	(26)
4. 新収蔵図書	(30)
5. 主なる新収蔵品写真	(37)
沖縄県博物館協会（沖博協）結成さる	(41)
組織	(42)

※表紙写真 寒山拾得（部分）

序

昨年も内外の多くの方々から数々の資料の寄贈をいただき、御協力にたいして感謝にたえません。特に別記のとおり徳之島の乾純之助氏や鹿児島市の伊江かね氏からの寄贈品は、いずれも両氏が永年愛蔵してこられた貴重なものだけに、私たちは博物館でこんごも一層大切に保管し、かつ、展示等により充分に活用し、御厚意に報いるよう努めたいと思います。

当館では数年前から作業をつづけてきた全収蔵品の分類と台帳の整備も一応整い、昨年は収蔵品目録も完成しましたので、寄贈者や内外の関係機関、文化団体等に送付しました。

また、環境整備の上から、古くなった館周囲のフェンスを新らしく取替え、なお庭を拡張して花卉を植え、環境の美化にもつとめました。一方、博物館活動の面では、多年懸案の沖縄県博物館協会も昨夏結成され、第1回沖縄県博物館協会職員研修会が冬に開催されました。

このように各館園が相互に連携して地域社会の文化の向上発展に寄与すべく、職員一同決意を新たにし、館内外の整備充実につとめております。

こんごともいろいろな面から皆様方の御協力を賜りますよう御願い申し上げます。

昭和 53 年 7 月

沖縄県立博物館長 外 間 正 幸

沿革

- 1946年4月 沖縄陳列館は沖縄民政府に移管
(昭和21年) され「東恩納博物館」(当館の前身)と改称。
- 1947年12月 首里市立郷土博物館は沖縄民政府に移管され、「首里博物館」と改称。
- 1953年5月 首里当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館落成。東恩納博物館と合併し規模拡大する。
- 1955年9月 首里博物館を「琉球政府立博物館」と改称。
- 1966年10月 米国援助により、首里大中町の尚家跡に鉄筋コンクリート建(3,294 m²)の新館が落成移転。
- 1972年5月 日本復帰に伴い、名称を「沖縄県立博物館」と改称。
- 1973年2月 国庫補助を得て1,573 m²の2階を増築。展示室が3室ふえる。
- 1976年4月 創立30周年記念事業挙行。
(昭和51年)

〔付〕

- 1936年7月 沖縄県教育会附設として「沖縄郷土博物館」首里城内北殿を使用して開館される。貴重な文化財が数千点収蔵されていた。
- 1945年3~5月 沖縄戦で「沖縄郷土博物館」(昭和20年)全焼。
- 1945年8月 米国海軍軍政府により残欠文化財が収集され、石川市東恩納に「沖縄陳列館」設立される。
- 1946年3月 首里城周辺の廃墟から残欠文化財の収集活動が行われ、「首里市立郷土博物館」が設立される。

日 誌 (抄)

(昭和52年4月1日～昭和53年3月31日)

4. 2 北海道教委、委員長紅林晃氏一行来館。
4 まつもと民芸館長、大阪民芸館長来館。
6 キリスト教短大入学式のため、ホール
使用。
7 前福岡市資料館長三島格氏、佐賀県博
の森醇一郎学芸員来館。
12 琉大美術工芸卒展（17日まで）。
15 ①名護市我部の嶺井宗太郎氏所有の松
舟寄贈される。
②大嶺実清氏より民俗文化財「鳥の嘴」
寄贈。
③比嘉正昌氏より硯1点寄贈。
19 ジャン・デーゲ氏外染色関係者一行来
館。
23 文化講座「おもうの話」（講師：池宮
正治琉大助教授）。
5. 6 安座間鉄夫氏より厨子ガメ4個寄贈。
7 冷房機運転開始。
8 最高裁判事岸盛一氏来館。
10 沖国大2年次平敷セミナー一行来館。
14 新収蔵品展オープン（6月26日まで、
於2室）。
- 17 火災報知機新設工事。
都道府県会館災害共済部長仁科久夫氏
来館。
19 「琉染」より着物20点寄託。
24 梵鐘調査のため坪井良平氏（文保審専
門員）、香取正彦氏（同）、廣井雄一
氏（文化庁）、鈴木友也氏（文化庁）
来館。
28 文化講座「尚家本おもうさうし」を読
んでみよう。（講師：池宮正治氏）
6. 2 中日新聞文化部次長豊田穰氏来館。
4 琉大方言研究クラブ20周年講演会（於
ホール）。
- 11 琉大教授職員会主催第一回学術講演会。
12 鈴木尚氏（人類学者）来館。
14 「沖縄の藍」展オープン（26日まで）。
- 18 博物館協議会、議題、「玉陵石獅子の
取扱いについて」。
18 法大総長中村哲氏（法大沖縄文化研究
所長兼任）一行来館。
21 芭蕉紙製作者勝公彦氏来館。
22 香川県副知事井上房一氏一行来館。
25 文化講座①「沖縄の藍と藍型」（講師
渡名喜明学芸員）②「琉球藍の製造と
醸酵建」（講師：川口義二氏）。
- 26 民俗同好会（研究会）。
- 27 くんじょう作業（29日まで）。
7. 1 文化庁榎元由喜雄氏来館。
沖永良部の医師吉松軍八氏来館。
5 厨子ガメ2個、箪笥1個寄贈。
6 沖縄社会学会学術講演会。
8 沖縄県博物館協会結成大会。
江ノ島水族館長廣崎芳次氏来館。
19 「混効驗集」東博において修理、担当
者池上幸雄氏文化庁財津永次氏持ち來
る。
- 23 第39回文化講座「拓本のとり方」（講
師：崎間麗進氏）。
- 26 早大教授（東洋史）長澤和俊氏、国立音
楽大学教授内田るり子氏、早大高等学院教
諭（民俗）水野紀一氏一行来館。
- 28 九州高等学校理科研究大会（於ホール、
29日まで）。
8. 3 佐賀県教委、教職員会一行来館
3 NHK仲松氏ら「江戸与那三味線」録

- 画打合せのため来館。
8. 7 大阪、東京教職員約60名来館。
- 13 第40回文化講座「戦前の沖縄」映写会。
- 20 沖縄の竹細工展オープン（9月11日まで）
で) 第41回文化講座「沖縄の竹細工」
講師：勢理客幸英氏（竹細工技術保持
者）。
- 24 玉陵石獅子レプリカ製作始まる（31日
まで）京都科学標本K. K. 福元剛工芸
部長外3部。
9. 1 同レプリカ仕上げのため京都へ発送。
- 5 玉陵石獅子玉陵へ移管。
- 6 衆議院文教委員会一行視察。
- 8 「東洋漆器展」出品のため、東博へ漆
器3点貸出す。
- 11 文化庁小林達雄氏来館。
- 14 九州地区青年の家職員40人来館。
- 16 「琉大美工展」始まる（於第2室、22
日まで）。
- 24 第42回文化講座「沖縄の自然」（講師：
高良鉄夫琉大教授）。
- 24 民俗同好会（研究会）。
- 26 除湿機取り付け工事。
- 27 喜屋武真栄氏三葉虫化石一個寄贈。
- 28 お茶大（東洋史）教授和田久徳氏来館。
- 29 鎌倉学園高校生28人見学。
- 30 高英研講演会（於ホール）。
10. 4 滋賀県知事武村正義氏来館。
- 7 東大教授加藤一郎氏外15名来館。
- 20 天底小50名、金武小428名見学。
- 21 広島県西川氏より交換用自然系資料三
箱入館。
- 22 第43回文化講座「沖縄の植物自然」
(講師：新納義馬琉大教授)。
- 25 サントリー美術館副館長平井鮮一氏、
- 同事務局長山口久吉氏来館。
10. 26 宮城県副知事大槻七郎氏一行来館。
- 27 中国・四国・九州地方工芸合同部会一
行来館。
- 28 江上波夫氏（考古学、歴史学）来
館。
- 29 文化財修理技術者実技講習会（於ホー
ル）。
11. 1 県展はじまる（6日まで）。
- 3 ①「文化の日」につき開館、入場無料
入館者数2,312名。
②円覚寺梵鐘鳴る。
③首里文化祭実行委員会。
- 4 福島県知事松平勇雄氏来館。
- 8 円覚寺の鐘、年末まで前庭に展示。
- 9 ①無形文化財工芸展はじまる（13日ま
で）。
②山形県副知事荒木修一氏来館。
- 15 東京学芸大助教授小林文人氏一行来館。
- 19 身障者問題研究会による講演と映画
(於ホール)。
- 20 ①大分県青年連合会団体見学。
②文厚委員嵩原県議本館事情視察と情
報収集のため来館。
- 22 国際キリスト教大教授（歴史学）山本
達郎氏来館。
- 24 元大阪市立博物館長平山敏治郎氏来館。
- 25 東工大（建築学）教授谷口吉郎氏来館。
- 26 第44回文化講座「野鳥を中心とした山
原の自然」（講師：友利哲夫名護高校
教諭）。
12. 2 琉大英語クラブ公演（於ホール、3日
まで）。
- 12 ①九歴の亀井明徳氏（考古学）来館。
②徳川美術館長徳川義宣氏来館。

12. 13 沖縄県博物館協会職員研修会（14日まで）
 審査会委員）。
12. 17 ①第45回文化講座「沖縄の自然」（映写会）。
 ②名古屋民芸協会常務理事本多静雄氏
 新里全福氏の案内で来館。
12. 20 赤土会展（25日まで）。
12. 28 くんじょう作業。
- 53年
1. 12 ①国際ロータリー理事原田秀雄氏来館。
 ②東工大名誉教授杉野喜一郎氏来館。
1. 20 国分直一教授（考古学）来館。
1. 23 フェンスの改修工事始まる。
1. 27 安部栄四郎展の一行来館。
1. 28 ①東洋大教授大島建彦氏来館。
 ②徳之島郷土研究会員徳富重成氏、仲
 松弥秀氏の案内で来館。
 ③奈女大教授畠中俊郎氏来館。
 ④第46回文化講座「沖縄の神酒」（講
 師：平敷令治氏（沖国大教授）。
- 29 民俗同好会（研究会）。
- 31 ①与儀婦人会第2室使用。
 ②自記温湿度計4台増配置。
2. 1 玉城技師一か年間施設課へ出向。
- 2 沖縄平和公園建設協会吉田嗣延氏一枚
 の絵株式会社社長竹田巖道氏鎮西直秀
 氏を案内のため来館。
- 10 共産党県議団一行視察のため来館。
- 14 原野農芸博物館長原野喜一郎氏来館。
- 15 首里高卒業展（23日まで）。
- 18 ガールスカウト、ホール使用。
- 19 民俗同好会（研究会）。
- 22 首里の識名ヨシ氏より位牌、その他寄
 贈あり。
- 25 第47回文化講座自然観察会「首里末吉
 の植物」講師：多和田真淳氏（県森林
3. 2 伝統工芸指導所卒業展オープン（5日
 まで）。
- 2 徳川美術館へ漆器貸し出す。
- 5 地機の見学と実測図作成（南風原村本
 部21 大城兼光氏）。
- 7 お茶大教授青木和夫氏、文化庁主任文
 化財調査官仲野浩氏、史学科学生15名
 来館、新田学芸員説明。
- 9 文化財保護専門委員会（於第2室）。
- 11 民俗同好会（研究会）。
- 12 第3回三校合同陶芸展（首里高等学校、
 沖縄工業、盲学校）オープン（19日ま
 で）。
- 14 ①識名ヨシさんより厨子ガメ等8基寄
 贈あり。
 ②埼玉県栄高校 350名見学。
- 15 明治36年版沖縄管内地図寄贈さる。
- 17 博物館協議会。
 岡山民俗学会理事長土井卓治氏来館。
- 19 中国大使館武官呉新安氏来館。
- 20 龍村美術織物、吉田富太郎氏来館。
- 22 ①早実研修旅行で30名見学、ホールで
 「琉球の風物」と「琉球の民芸」上
 映す。
 ②国立科学博物館 井上図書課長来館。
- 25 ①徳川美術館へ漆器18点貸出す。
 ②徳川義宣氏来館。
 ③第48回文化講座「沖縄の原始農耕に
 ついて—考古学的な面からのアプロ
 チー」講師：新田学芸員。
- 26 全国修学旅行研修団見学。
- 28 九大石橋毅博士来館、アンモナイトを
 鑑定した。
- 29 山城時計店購入予定の長嶺華国芭蕉図

納品さる。

- (5日
- 原村本
主任文
生15名
屋)。
等学校、
9日ま
3基寄
る。
来館。
音。
ールで
表」上
長来館。
漫耕に
アプロ
トを
芭蕉図
3. 30 全国修学旅行研修団第3班見学。
 - 31 東京芸術大学教授 前田泰次氏来館。

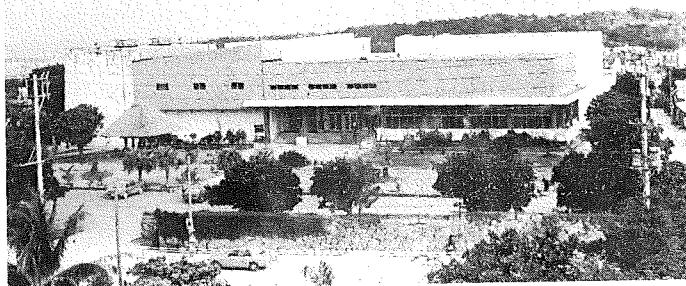
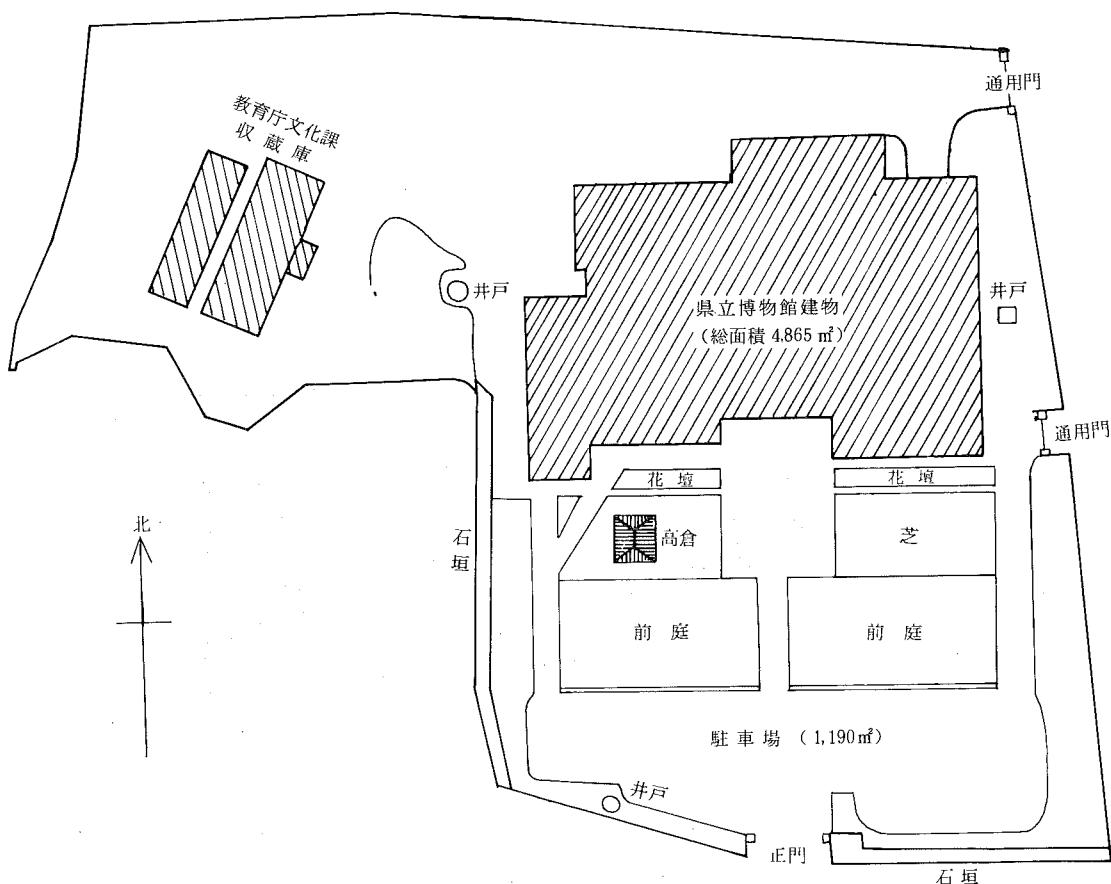


旧円覚寺の鐘をつきはじめる



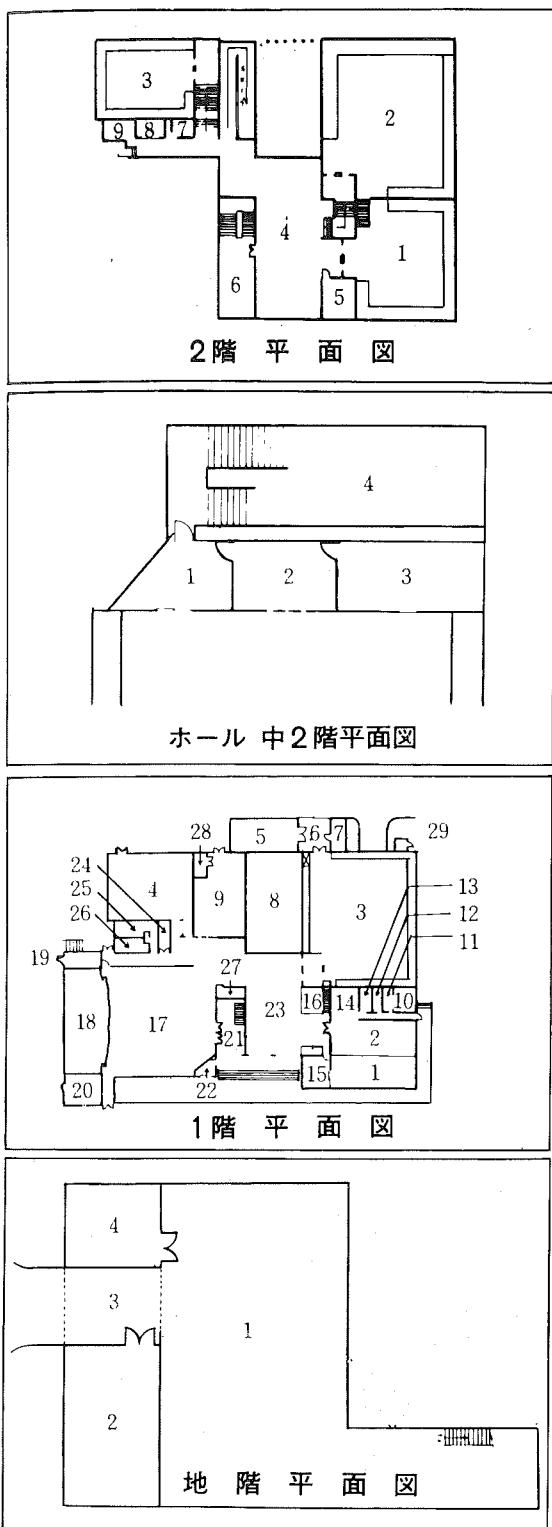
フェンス改修工事始まる
(昭和53年1月23日)

施設配置図



博物館全景

施設・設備



●概要

敷地面積	11,246 m ²
建物面積	2,261 2,209 地階 395
(㎡)	計 4,865
展示面積	1階 627 2階 870
	計 1,497
ロビー面積	637
収蔵庫面積	417
駐車場面積	1,190
庭園面積	1,612
冷房機	(チラー) 圧縮機 22kw × 3台 冷凍能力 13.2トン × 3台
空調機	第1室 2.2kw 第2室 0.75kw 第3、4室 5.5kw 第5室 1.5kw 講堂 5.5kw
変電室	電灯 3P 100 KVA × 1台 1P 30 KVA × 1台
契約電力	動力 3P 150 KVA × 1台 206 kw 業務用電力
講堂	客席数 1階 434 席 2階 196 席 計 630 席
	デスク型アンプ 1台 マイク 3台

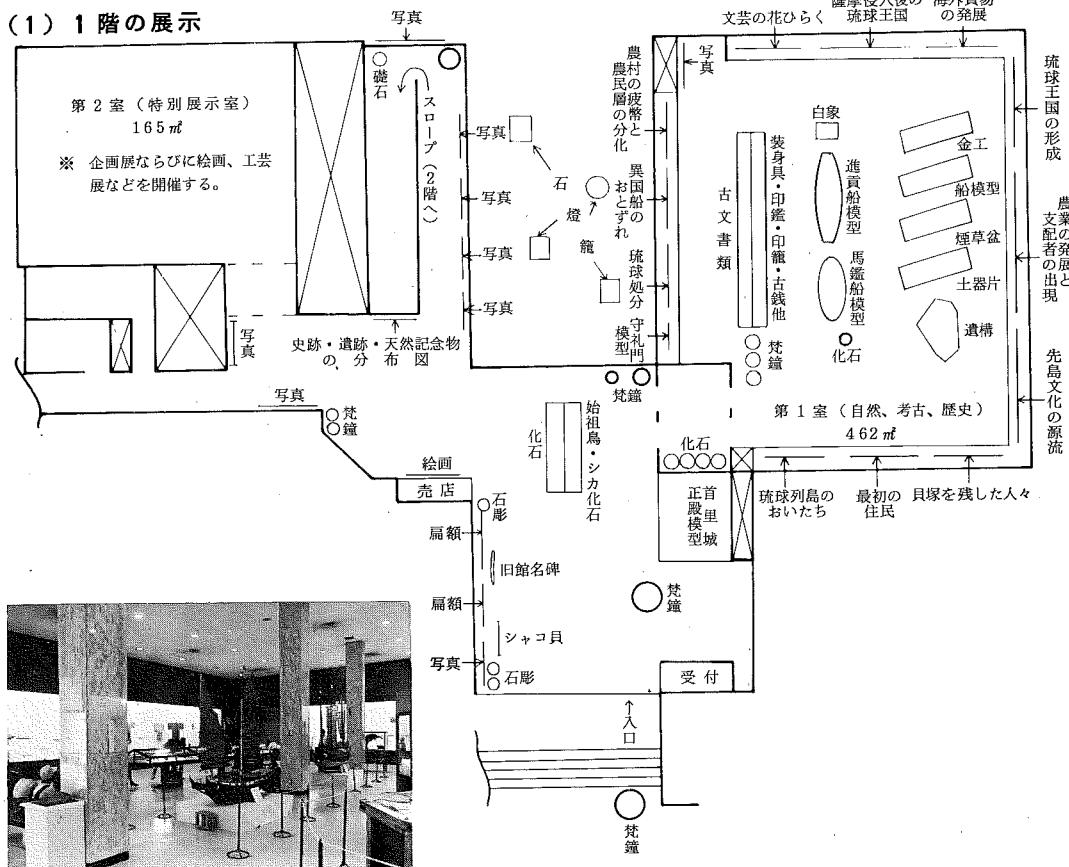
●室名と面積

階	室番号	室名	面積	m ²
2階	1	(第3室)	美術工芸展示室	265
	2	(第4室)	民俗展示室	435
	3	(第5室)	陶磁器展示室	170
	4	ロビー		257
	5	空調室		29
	6	ホール控室		59
	7	化粧室(女)		6
	8	化粧室(男)		11
	9	空調室		12
ホール中2階	1	調光室		13
	2	映写室		18
	3	音響効果室		21
1階	1	事務室		83
	2	資料室		83
	3	(第1室)		462
	4	(第2室)		165
	5	収蔵庫		120
	6	荷解場		32
	7	漆器収蔵庫		11
	8	中庭		152
	9	厨子彫収蔵庫		91
	10	宿直室		10
	11	湯沸室		7
	12	化粧室(男)		6
	13	化粧室(女)		7
	14	図書室		27
	15	館長室兼応接室		27
	16	模型コーナー(首里城)		20
	17	講堂(客席)		1,023
	18	ステージ		99
	19	控室		15
	20	控室		29
	21	講堂出入口		36
	22	守衛室		6
	23	ロビー		380
	24	倉庫		12
	25	化粧室(女)		21
	26	化粧室(男)		15
	27	売店		10
	28	空調室		10
	29	ポンプ室		5
地階	1	室名	面積	m ²
	2	収蔵庫		195
	3	冷房機室		56
	4	荷解場		28
		麥電室		28

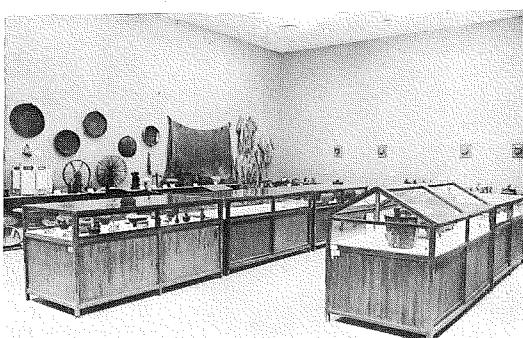
事業

1. 展示

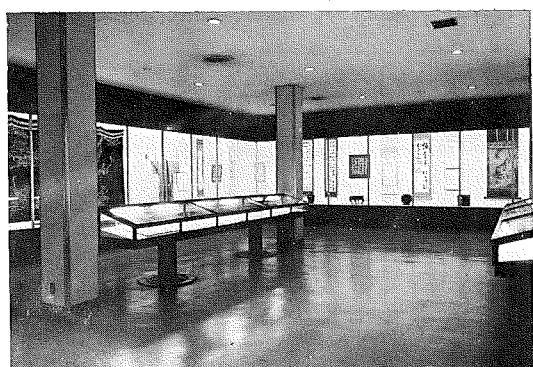
(1) 1階の展示



第 1 室

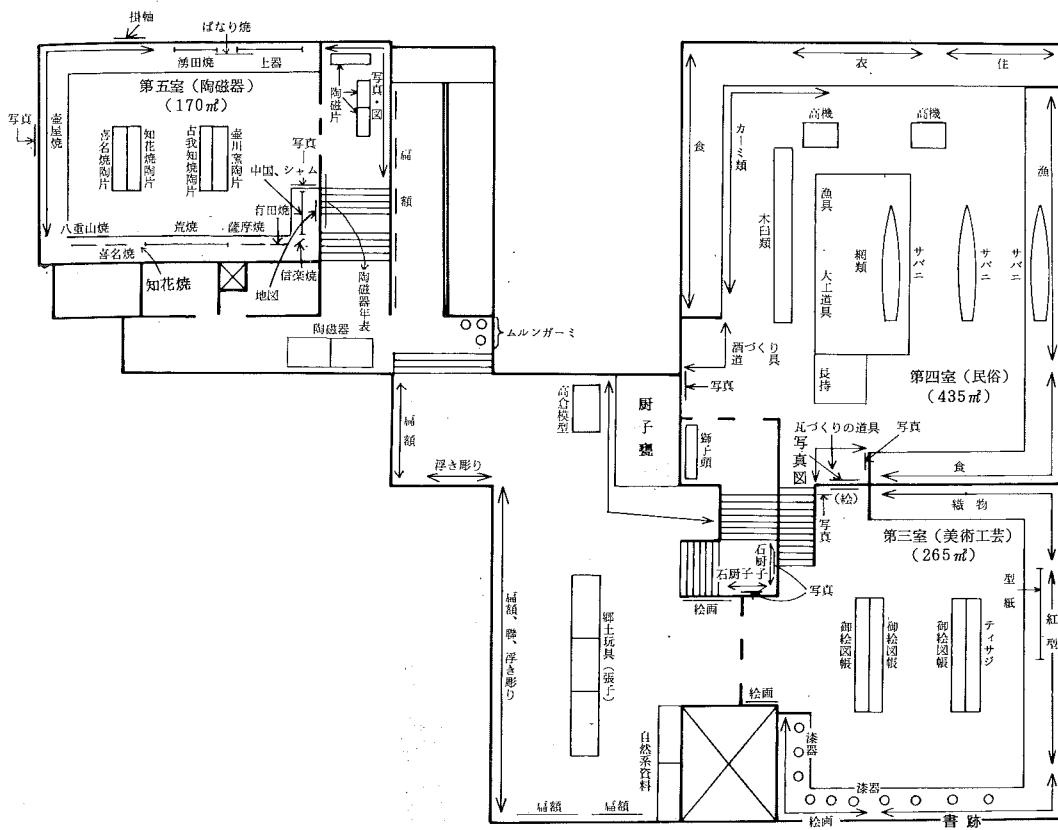


第2章

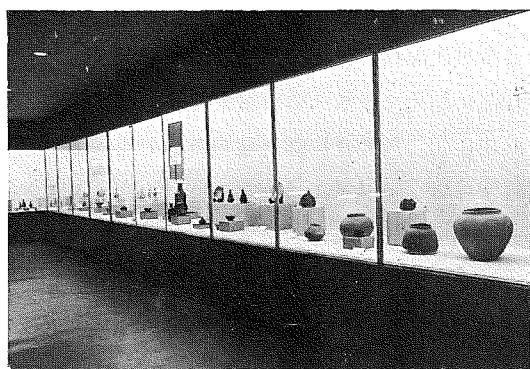


第三案

(2) 2階の展示



第4室



第 5 室

(3) 概 略

展示替えは原則として年二回行われる。新しい展示計画を立てて、6月と12月の燻蒸のあとに展示替えを行っている。

52年度に新しく展示した分野（資料）を拾ってみよう。まず、現代絵画の展示をあげることが出来る。しかし、特定の展示室がとれず分散して展示を行った。一階ロビーには大嶺政寛作「龍潭池畔」（昭和18年）、二階第三室入口には斧山万次郎作「裸婦」（昭和10年頃）、そして第三室には安谷屋正義作「港」（昭和35年）を展示した。一方、一階、二階ロビーの展示にも多少移動がある。一階ロビーの中ケースには薩摩焼の陶磁器にかわって化石を展示、講堂入口には臨海寺梵鐘（1459年鋳造）と万寿寺梵鐘（1456年鋳造）を展示した。次に、従来二階ロビーに鎌倉芳太郎氏撮影の「50年前の沖縄」の写真のなかから選んで展示してあったのをスロープの壁面に移し、そこに扁額、聯、浮き彫りなどを展示した。

また二階ロビーの中ケースにこれまで展示してあった佐敷村小谷で製作された竹細工にかわって、崎山嗣昌作の郷土玩具（張子）を展示した。

第五室の陶磁器と関連させて、入口階段近くに中ケースを移動して現代沖縄陶芸界を代表する金城次郎氏、新垣栄三郎氏、小橋川永昌氏の作品に加えて、故人の新垣栄徳、小橋川仁王、浜田庄司、河井寛次郎と現在英国で活躍中のバーナード、リーチ氏の作品を展示したことなどが前回の展示と違う点である。

なお、各展示室の案内を下記に書いておく。

第一室（歴 史） 沖縄の地質時代から貝塚時代、廃藩置県に至るまでの歴史の流れを

追っての展示である。

- | | |
|------------|---|
| 第二室（特別展示） | 当館主催による企画展ならびに個人、団体展などの申込みにより、絵画、工芸の展示会を行った。（別紙参照） |
| 第三室（美術工芸） | 沖縄の美術工芸（絵画、書跡、漆器、染織）を展示しているが、全部新しく展示替えをした。なお、写植による解説パネル（和文、英文）を作成してかけた。 |
| 第四室（民 俗） | 県内各地から収集した民俗資料を展示しているが、一部新収蔵資料を追加展示した。 |
| 第五室（陶 磁 器） | 沖縄の陶磁器を総合的に展示し、他県や周辺諸国のもも若干関連して展示しているが、51年度は全部展示替えを行った。なお、琉球陶磁器年表も作成した。 |

ある。
企画展
団体展
より、
示会を
参照)
(絵画、
織)を
、全部
をした。
る解説
英文)
げた。
集した
してい
蔵資料
。
総合的
や周辺
干関連
るが、
示替え
、琉球
成した。

(4) 第2室展示一覧

(S 52. 4 ~ S 53. 3)

年月日	展覧会名	主催者
S 52 4・12~ 4・17	卒業制作展	琉球大学美術工芸科
5・14~ 5・26	新収蔵品展	当館
6・14~ 6・26	沖縄のあい展	"
8・13~ 9・11	竹細工展	"
9・14~ 9・22	作品発表展	琉球大学美術工芸科
10・1~ 10・20	考古資料発掘展	当館
11・1~ 11・6	県芸術祭美術展覧会	県教育委員会
11・8~ 11・14	" 工芸展	" "
11・17~ 11・20	木筆書道展	木筆書道会
12・19~ 12・25	赤土会展	赤土会
S 53 2・3~ 2・5	書道アンデパンダン展	県高等学校書道教育研究会
2・7~ 2・12	首里高校美術クラブ 作品発表展	首里高校美術クラブ
2・14~ 2・23	そめおり展 —卒業制作展—	首里高校染織デザイン科
3・2~ 3・5	研修生作品発表展	県立伝統工芸指導所
3・11~ 3・19	第2回三校合同陶芸 クラブ作品発表展	首里高校、盲学校、沖縄工業高校の各陶芸クラブ
3・28~ 4・2	卒業制作展	琉球大学美術工芸科

(5) 特別展

イ、新収蔵品展

期間 昭和52年5月14日~5月26日

会場 第2室

この「新収蔵品展」には、昭和50年度および昭和51年度にかけて新しく当館に収蔵した資料のなかから、絵画、書跡、陶磁器、漆器、染織、民俗資料、その他の各分野からおよそ250点を選んで展示した。

これらの展示された資料のなかには、当館の予算で購入したものもあり、または内外のおおくの方々の御厚意によって寄贈された貴重な資料も多い。会場でこれらの資料の数々をながめていると、毎回のことながら当館によせる内外の人々の関心と温かい協力の足跡をみることが出来る。改めて感謝の念を強くするものである。

これらの資料は広く一般に公開し、またいつまでも大切に保管して、今後の博物館活動に役立てていきたい。



新収蔵品展 会場風景

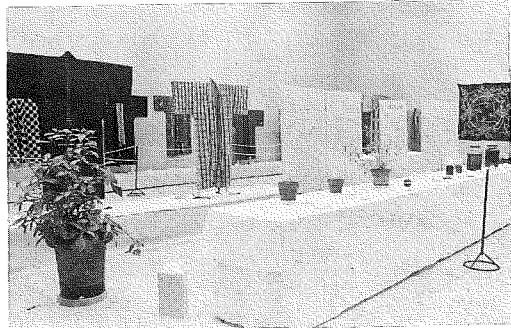
ロ、沖縄の藍展

期間 昭和52年6月14日~6月26日

会場 第2室

この企画展では表題が示す如く、琉球における染料の藍を総合的に取りあげ、立体的に展示することを試みたものである。琉球藍、インド

藍、タデ藍の現物をはじめ、琉球藍の醸酵建染色法（パネル・説明）、泥藍のできるまで（パネル・説明）、泥藍の製造工程（パネル・図表）なども展示した。それに加えて当館所蔵の藍染の着物（織物・紅型）、藍染の手布（織物）、風呂敷（紅型）など展示計画に従って出来るだけ多く出品し、会場構成は整然としかもわかりやすく配慮した。この種の催しは画期的なものもあり、なかなかの好評であった。なお、会期中、第38回博物館文化講座「沖縄の藍」（講師 川口義二氏、渡名喜明学芸員）を開催した。



沖縄の藍展 会場風景

ハ、竹細工展

期間 昭和52年8月13日～9月11日
会場 第2室

竹細工展は竹と私たちの暮らしとの深い結びつきを考えると同時に、これから新しい竹細工の活用と方向性を深ることを目的として企画された。会場構成面では、竹のふるさとといわれる東南アジアと日本の竹細工、そして沖縄の竹細工を比較することにも留意しながら展示をした。

と同時に、沖縄にある竹の種類（実物）、伝統的な技法による竹製品のいろいろ、更にそれらを発展させて新しく工夫をこらした新製品に至るまでを系統的に配列展示を行った。なお、

会期中、第40回博物館文化講座「竹細工を作つてみよう」（講師 勢理客幸英氏）を開催した。ちょうど、夏休み期間中とあって会場には親子連れの参加が目立ち、一緒に竹細作りに余念がなかった。



竹細工展 会場風景

二、考古資料発掘展

期間 昭和52年10月1日～10月20日
会場 第2室

この特別展には当館がはじめて発掘に参加した渡喜仁浜原貝塚（今帰仁村）と苦増原遺跡（具志川市）から出土した資料を中心に展示を行った。

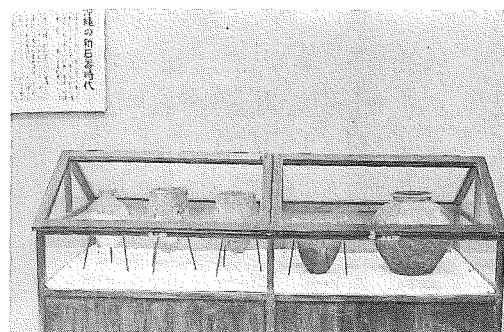
この企画は、遺物や遺構を通して私たちの祖先の暮らし方から出発して、そこからどのように継承発展して現在に至ったを考えさせる。と同時に最近の乱開発による自然や文化財の破壊に対する警鐘とそれらをよりよい方法で保存・活用しながら未来に向けて発展させたいという願望がこめられている。

展示は出土品を中心にして、主要遺跡分布図（パネル）、遺跡の編年表（パネル）、写真・解説パネル、図表などを使用した。そして沖縄における先史時代から、浜原貝塚、苦増原遺跡の各コーナーに区分し、自然環境、性格、発掘経過などわかりやすく解説展示を行った。

を作った
催した。
は親子
に余念



月20日
参加し
遺跡(具
を行っ
ちの祖
のよう
る。と
の破壊
保存・
という
分布図
写真・
て沖縄
原遺跡
、発掘



考古資料発掘展 会場風景

2. 調査・研究活動

本年度の調査研究活動を概観してみると、美術工芸、民俗、考古それに地質等の各担当学芸員により、特に県内を中心とした資料収集活動が精力的に行われた。

さらに本年は急速な地域開発に伴って生じた埋蔵遺跡の緊急調査があり、それに県内の美術工芸の調査、また自然部門では天然記念物のケラマジカ実態調査、洞穴実態調査などの依頼による調査が多くあった。これらの収集活動を含めた諸調査の成果は「県立博物館紀要」、県教委発行の報告書その他の学術団体の出版物に報告されている。

なお、当県は他府県と異って多くの島々から構成されており、しかもそれぞれ特異な自然・文化を有するので、以前から島ごとの総合的調査の必要性が提案されているが、現在まで実現されていない。今後は、総合調査にむけて各部門別の調査研究テーマを設定し、さらに調査協力員および補助員の協力を得れるような予算措置をも講じる必要がある。

以下、年度内の調査研究を簡単に記述する。

(1) 調査研究活動の状況

館長 外間正幸

8月：乾純之助氏のコレクション調査で徳之

島へ（1～3日）

学芸員 新田重清

4月：ヤジャーガマ遺跡の調査で久米島へ（依頼、3～6日）

5月：浜原、西長浜貝塚の調査で今帰仁村へ（2日）

“：糸満市の諸文化財調査へ（依頼、6～13日）

7月：苦増原遺跡の調査で具志川市へ（6～7日）

10月：遺跡調査および資料収集で波照間島へ（31日～11月4日）

12月：寄贈資料の調査で大阪へ（依頼、7～11日）

学芸員 上江洲 均

5月：民俗調査で西原村へ（25日）

“：“糸満市へ（依頼、26日）

6月：民俗調査と民具収集で奄美大島へ（6～10日）

“：民俗調査で渡嘉敷島へ（依頼、28～29日）

7月：民具調査で台湾へ（依頼、20～8月2日）

12月：民具調査で台湾へ（依頼、19～24日）

2月：県指定物件の記録作成で勝連村津堅へ（依頼、22～23日）

3月：民俗調査で浜比嘉島へ（6日）

“：“奄美大島へ（依頼、20～26日）

学芸員 宮城篤正

4月：陶磁器調査で糸満市兼城へ（4日）

5月：浦添市史関係資料調査で東京へ（依頼、16～22日）

6月：絵画、陶磁器調査で与那国島へ（7～10日）

- 6月：美術工芸の調査で伊是名島へ（依頼、16～18日）
- 7月：絵画調査で宮古島へ（依頼、5～7日）
- 8月：乾純之助氏のコレクション調査で徳之島へ（1～3日）
- 10月：絵画調査で久米島へ（依頼、4～6日）
- 11月：総合文化センター設立に関する美術館等の調査で東京・大阪へ（依頼、20～29日）
- 1月：絵画調査で八重山へ（依頼、9～12日）
- 3月：美術工芸の調査で那覇市内へ（1～2日）
- “：陶磁器調査で浜比嘉島へ（6日）
- “：絵画調査で八重山へ（依頼、17～20日）
- “：“久米島へ（依頼、24～26日）
- “：“宜野湾市大謝名へ（依頼、28日）
- 学芸員 大城逸朗**
- 4月：地質調査および資料収集で久米島へ（依頼、19～26日）
- “：地質および洞穴調査で具志頭村港川へ（依頼、30日）
- 5月：化石採集で本部町へ（23～24日）
- 6月：洞穴内の化石採集で知念村へ（3日）
- 7月：マガ玉の石質鑑定で瀬底島へ（依頼、5日）
- “：地下ダム建設の予備調査で沖縄本島南部へ（依頼、11～12日）
- “：鯨化石の発掘で糸満市摩文仁へ（15日）
- “：洞穴実態調査で南北大東島へ（依頼、22～8月4日）
- 8月：ケラマジカの実態調査で阿嘉・慶留間島へ（依頼、8～17日）
- 10月：資料（シレナシジミ）採集で宜野座村久志へ（13日）
- 10月：地質調査および資料収集で波照間島へ（31～11月4日）
- 11月：県基本地質図作成の調査で久米島へ（依頼、8～11日）
- 3月：基地内文化財調査で嘉手納基地へ（依頼、14日～15日）

学芸員 渡名喜 明

- 7月：芭蕉布調査で大宜味村喜如嘉へ（26日）
- 8月：“ “ （5日）
- 3月：民俗調査で浜比嘉島へ（6日）
- “：芭蕉布調査で大宜味村喜如嘉へ（23～24日）
- “：織物調査で読谷村立歴史民俗資料館へ（28～29日）
- “：芭蕉布調査で大宜味村喜如嘉へ（30～31日）

(2) 講演・研修活動および大会参加

館長 外間正幸

- 照屋電気工事KK従業員へ「沖縄の歴史と文化」で講演（4月30日）
- 県立北谷高等学校で「沖縄の歴史と文化」について講演（7月12日）
- 壱屋陶器事業組合で「沖縄の伝統工芸」について講演（9月19日）
- 九州地方工芸合同部会大会で「沖縄の伝統工芸」について講演（10月26日）
- 九州博物館協議会理事会および総会へ出席のため鹿児島へ（5月25～28日）
- 復帰5周年記念工芸展開会式出席のため東京へ（8月28～30日）

学芸員 新田重清

- 九州博物館協議会へ出席のため鹿児島へ（5月24～28日）

学芸員 上江洲 均

- NHKテレビ「三味線江戸与那」へ出演

- (8月15日)
- ・自治研修所の公務員研修講座で「沖縄の年中行事」について講演（10月26日）
 - ・国立青年の家のリーダー研修会で「沖縄の年中行事」について講演（11月18日）
 - ・西原村老人クラブで「沖縄の年中行事」で講演（11月21日）
 - ・民具展示の指導で金武村立金武小学校へ（2月28日）
 - ・民具学会出席のため兵庫県へ（10月7～12日）
- 学芸員 宮城篤正**
- ・民芸館友の会で「焼物の話」で講演（6月3日）
 - ・浦添市内社会科担当小学校教師に対し「浦添の歴史と史跡」で講演（6月6日）
 - ・浦城小学校婦人学級で「焼物の話」で講演（9月6日）
 - ・壺屋陶器事業組合で「沖縄の陶芸史」で講演（10月12日）
 - ・浦添小学校婦人学級で「織物と焼物の話」で講演（10月26日）
 - ・浦添小学校婦人学級で「浦添の歴史」で講演（2月21日）
 - ・民具展示の指導で金武村立金武小学校へ（2月28日）
- 学芸員 大城逸朗**
- ・高等学校生物教育研究会で「琉球列島の歴史」で講演（12月2日）
 - ・高等学校地学教師の地質巡検案内で久米島へ（12月26～28日）
 - ・第二回地質コロキュウム後の地質巡検案内で久米島へ（2月13～15日）
- 学芸員 渡名喜明**
- ・サントリー美術館の「紅型と藍型」展で東京へ（10月13～15日）
 - ・九博協研修会参加および九州各県博物館の視察へ（1月31日～2月5日）
- (3) 著作・論文その他**
- 学芸員 新田重清**
- ・「鳥居龍藏」 新沖縄文学、第37号、沖縄タイムス社、25-40、1977。
 - ・「南山に関する文献目録－糸満市文化財保護委員会による南山城跡調査メモから」 沖縄県立博物館紀要、第4号、75-92、1978。
- 学芸員 上江洲 均**
- ・「沖永良部島の民具調査から」、やちむん、6、7合併号、やちむん会、1977。
 - ・「沖縄の民具」・「屋根獅子」、日本の民話、No.16、沖縄篇 1977。
 - ・「沖縄地方の風土と歴史」、日本の名産事典、東洋経済新報社、1977。
 - ・「伊平屋島採訪記－島尻村落の民俗調査から」、沖縄県立博物館紀要、第4号、44-62、1978。
 - ・全国民俗博物館総覧（柏書房）に沖縄県の部を執筆、1977年4月。
 - ・「台湾を歩く－民具調査を通して」、沖縄タイムス紙、1977年9月13～14日。
- 学芸員 宮城篤正**
- ・「奄美の焼物－丸田焼を中心として」、やちむん、6、7合併号、やちむん会、1977。
 - ・「沖永良部での伊波普猷」、やちむん、6、7合併号、やちむん会、1977。
 - ・「空手」、日本の民話16沖縄、研秀出版社、1977。
 - ・「琉球の呉須絵－いわゆる琉球染付について」、沖縄県立博物館紀要、第4号、31-43、1978。
- <創作活動>**
- ・『水字貝の詩』 第43回旺玄会へ出品（東京都立美術館） 1977年5月

- ・『水字貝の詩』 第11回沖縄旺玄会へ出品
(沖縄タイムス、第2ホール) 1977年10月。

学芸員 大城逸朗

- ・中西克之・藤田至則と共に著「久米島の鮮新統一その陥没構造」、琉球列島の地質学研究、第2巻、41-53、1977。
- ・「琉球層群中の不整合露頭」、琉球列島の地質学研究、第2巻、81-83、1977。
- ・「陸性マンガンノジュールの一産出形態」、琉球列島の地質学研究、第2巻、133-134、1977。
- ・木崎甲子郎と共に著「琉球列島の古地理」、海洋科学、Vol. 9、No. 8、38-45、1977。
- ・河名俊男と共に著「八重山諸島、波照間島の地形と地質－平坦面の形成過程および地殻変動についての予察」、沖縄県立博物館紀要、第4号、1-16、1978。
- ・野原昌人と共に著「陸成マンガンノジュール－その形状・鉱物学的・地球化学的特徴」、沖縄県立博物館紀要、第4号、17-30、1978。
- ・「慶良間諸島阿嘉・慶留間島の地形・地質(予報)」、ケラマジカ実態調査報告書、県教委、1978。
- ・「洞くつ調査の旅から一大東島をめぐって(上、下)」、琉球新報、1977年8月31日～9月1日
- ・「南北大東島の地形並びに地質－洞穴調査に関するもの」、県所在洞穴実態調査報告書、県教委、1978。

学芸員 渡名喜 明

- ・「勢理客幸英さんと竹細工」、やちむん、6、7合併号、やちむん会、1977。
- ・「喜如嘉の芭蕉布」、喜如嘉の芭蕉布、講

談社、25-40、1977。

- ・「柳宗悦論－その沖縄文化論を中心として」、新沖縄文学、沖縄タイムス社、第37号、49-56、1977。
- ・「紅型の型紙と型彫り－城間栄喜ノートをもとにして」、沖縄県立博物館紀要、第4号、63-73、1978。
- ・「沖縄と近代－民芸の立場から」、沖縄タイムス、1977年5月19～20日。



沖縄県立博物館紀要第4号

3. 資料収集活動

昭和53年3月現在の収蔵資料の総点数は17分野で7238点である。その中で52年度は1291点の資料が登録された。この登録資料の65%に相当する844点は、66名にのぼる方々の御好意による寄贈資料である。特に、徳之島の乾純之助氏から陶磁器、民具それに漆器の合計224点の資料の寄贈がありました。館では早速新収蔵品展示会でコーナーを設けて展示したが、さらに詳細な計測・調査が済み次第計画的に展示し利用していただく予定をしている。こういう様に多くの方々の御好意に支えられ、博物館のもつ使命をより一層感じるものである。

資料
p. 17
してお
(1)増
(2)分
(3)資
上記の
ならな
項です
た総合
ていく

4. 当館
破片や
するこ
まで引
残欠品
や修理
業を行
海外の
料の貢
く建設
陵復旧
指定の

として、
7号、49

ポートを
東、第4

沖縄タ

資料収集活動に関しては、前年の年報（No.10、p. 17）でおよそ次のような三つの問題点を指摘しておいた。

- (1) 増大した資料の分類方法を検討すること。
- (2) 分野外の資料収集にも重点をおくこと。
- (3) 資料収集目標をたてること。

上記の事は、今後も引き続き検討していくことである。さらに、調査研究活動の項目で述べておいたが、今後は地域を定めた総合的な調査に基づいた資料収集をも計画していく必要がある。



乾氏寄贈資料の搬入

4. 資 料 整 理

当館は、終戦直後の廃墟の中から、建造物の破片や石彫品の残欠を集め、整理保存して展示することから出発した。そのため、現在に至るまで完全な整理が思うにまかせないのである。残欠品の整理は当然修理を伴うので、予算不足や修理技術者不足がブレーキとなって、整理作業をおくらせて来た。

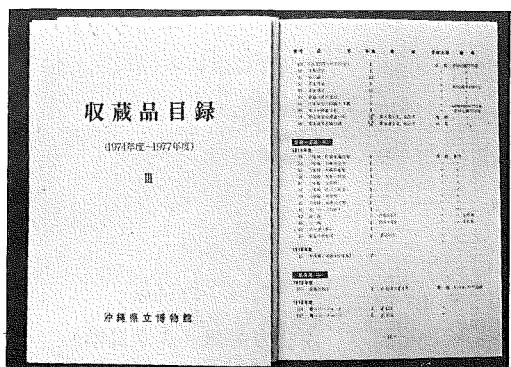
海外へ流出した文化財の返還、県外からの資料の買戻しなどがすすめられて來たが、ようやく建造物等の復元作業もすすみ、52年度は、玉陵復旧工事に伴って、残欠品の返品のほか、県指定の玉陵獅子2体も元の場所へ返した。

52年度は、長年の懸案事項であった資料整理

もすすみ、特に漆器（G）と考古（N）の分野で、従来未整理のまま収蔵されていた資料の整理がほぼ完了したことは特筆に値する。

資料の分類は、従来「購入」「寄贈」「収集」「返還」の4項目に分け、その中でさらに陶器、漆器、織物、書画、木彫、石彫、金属、雑の8項目に細分類していた。

その後、購入、寄贈、収集、返還別の台帳は廃止し、陶器、漆器等にふやした形で17項目に分類した。すなわち、絵画（A）、書跡（B）、彫刻（C）、建築（D）、陶磁器（E）、染織（F）、漆器（G）、金工（H）、歴史（I）、貨幣（J）、音楽・芸能（K）、装身具（L）、民俗（M）、考古（N）、武器・武具（O）、戦争（P）、自然（X）である。



沖縄県立博物館収蔵品目録Ⅲ

将来この分類を整理統合し、①自然資料、②歴史（考古含む）、③民俗、④美術工芸の4本を大きな柱にし、おのおの細分類する必要があると考えている。

昭和52年度は、「収蔵品目録」第3集を発行した。49年度から52年度までの全収蔵品を収めることができた。今後は3、4年単位でまとめて4集、5集として発行する予定である。

5. 資料保存・修理

(1). 煙蒸

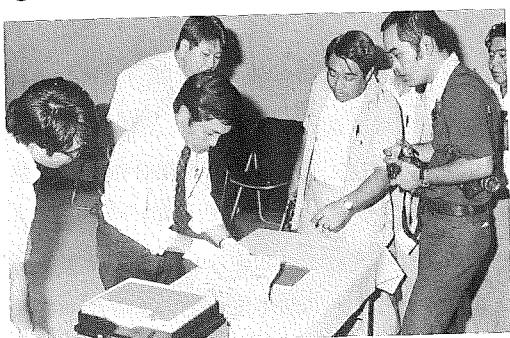
年二回の定期的な煙蒸が6月27日から29日までと、12月28日から30日に実施された。煙蒸する場所は各収蔵庫と各展示室、講堂、事務室、資料室それに首里城正殿模型等であった。第一収蔵庫、漆器収蔵庫、地下収蔵庫、首里城正殿模型はメチルプロマイドによる煙蒸で、他は噴霧、煙霧、消毒剤などによる防虫駆除を行った。

収蔵している資料を虫害から守るために煙蒸は絶対に欠かすことは出来ない。

(2). 博物館資料の修理

昭和52年度は70万円の修理予算が計上されたが、下記資料修理のため全額執行した。

- ①絵 画 琉球つづじの図 他2幅
- ②書 跡 波上宮梵鐘拓本(額装) 他2幅
- ③木 彫 円覚寺木彫9点
- ④漆 器 箔絵東道盆
- ⑤考 古 土器の復元(2点)
- ⑥歴史資料 朝鮮琉球総図
- ⑦陶 磁 器 魚文角瓶 他14点
- ⑧染織資料 衣裳の修理(久米島紬)
- ⑨民俗資料 糸車 他9点



修理を終えた混効験集の披露

なお、国指定の「混効験集」が昭和51年度文化庁予算により修理を完了し、昭和52年7月に

戻ってきた。また、当館が寄託を受けている田名家文書(32通)も同じく文化庁予算で修理された。

当館では今後修理予算を増やして資料の保存と併行して展示資料を増やしていきたい。

6. 教育普及活動

博物館における教育普及活動は、近年ますます活発になりつつある。これは、市民の要求の多様化に伴い、博物館が「もの」を展示して事足りりとするわけにはいかなくなってきた状況を反映してのことであろう。地域との結びつきの強化、そのためには博物館から地域への積極的な働きかけが必要であり、また地域住民の多様な要求に応える態勢が必要である。

昭和49年度に始まった博物館文化講座は、当初もっぱら講演方式をとってきたが、今年度は従来の方式に加えて講習会、観察会、映写会を加えた。文化講座の形式・内容の多様化もつまるところ県民により開かれた博物館にしていくための試みのひとつである。

刊行物の面で特筆すべきは『平敷屋朝敏文集』(上巻、影印本)と『収蔵品目録Ⅲ』の刊行である。前者は当館蔵資料の利用について研究者に便宜を図る目的で刊行したものである。また後者は3年がかりで刊行してきた目録の完結篇であり、これも資料の利用について大きな貢献をするものと思われる。県民への情報伝達の迅速化と県民の声をとりあげる意図のもとに昨年度から続いている「博物館だより」は2回発行しているが、当初の目的を十分はたしていない。少なくとも年4~6回の発行が必要だと思われる。

(1). 博物館文化講座

毎月1回、第4土曜日の午後2時30分から約2時間を原則として開催している。内容は沖縄

の自然・歴史・文化に関する教養講座で対象は一般市民。昭和53年3月で48回を数えている。講演会、講習会、観察会、映写会など内容に応じた形式をとりながら、よりわかりやすく、よりおもしろく、よりためになる講座を目指している。

昭和52年

4月23日（土）おもろの話 参加者85名

講 師 池宮正治氏（琉球大学助教授）

①『おもろさうし』諸本の系譜 ②「おもろ」の語義 ③『おもろさうし』の成立 ④「おもろ」の節名 ⑤「おもろ」の種類

5月28日（土）尚家本『おもろさうし』を読んでみよう。

参加者108名

講 師 池宮正治氏

当館蔵の国指定文化財尚家本『おもろさうし』のうち第18巻「志ま中於もの御さうし」を原本のコピーで読む講習会。

6月25日（土）沖縄の藍 参加者110名

講 師 川口義二氏・渡名喜明学芸員

特別展「沖縄の藍」に関連した講座。川口氏は琉球藍の製法・藍建てについて、また渡名喜明学芸員は沖縄の藍一般について解説した。

7月23日（土）拓本をとってみよう

参加者50名

講 師 崎間麗進氏（沖縄拓本研究会員）

当館蔵の石碑・石彫・梵鐘を使って拓本の講習会を開いた。

8月13日（土）映写会「戦前の沖縄」

参加者230名

当館蔵のフィルムのなかで、戦前の沖縄の記

録映画をまとめて放映した。

①琉球の風物（昭和15年） ②琉球の民芸（昭和15年） ③沖縄島物語－海の民－（昭和10年代） ④沖縄（昭和10年代） ⑤南の島琉球（昭和10年代）

8月20日（土）竹細工をつくってみよう

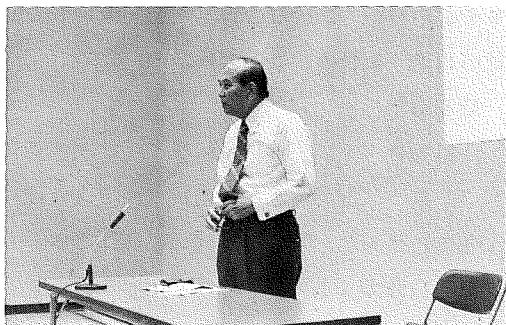
参加者43名

講 師 勢理客幸英氏（竹細工技術保持者）

竹細工用のひごを前もって勢理客氏に準備してもらい、竹の編み方、かごのつくり方の講習会を開いた。「沖縄の竹細工展」との関連講座。

9月24日（土）ハブと沖縄の自然

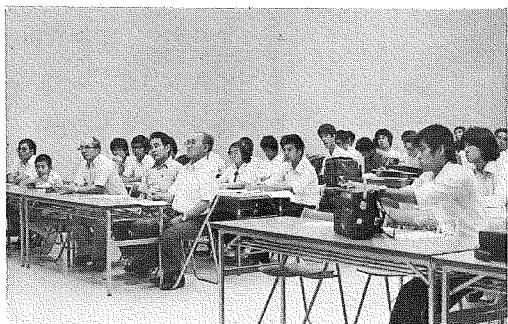
参加者110名



講演中の高良教授

講 師 高良鉄夫氏（琉大教授）

①ハブの民俗 ②ハブの種類と見分け方 ③ハブの形態上の特異性 ④ハブの習性 ⑤ハブの分布 ⑥ハブと沖縄の自然



聴講風景

芸員
員会
名品
る。

第22
尚

第23

世
第24
組

第25
類

第26

10月22日（土） 沖縄の植物自然

参加者75

講 師 新納義馬氏（琉大教授）

①植物地理学からみた沖縄の植物自然の特徴

②植物社会学からみた沖縄の植物自然の特徴

11月26日（土） 野鳥を中心とした山原の自然
参加者45名

講 師 友利哲夫氏（名護高校教諭）

①自作VTR「山原の自然」による山原の動物の紹介 ②生態写真の写し方 ③自然保護とその問題点

12月17日（土） 映写会「沖縄の自然」

参加者120名

①これがイリオモテヤマネコだ ②秘境イリオモテ島の冒険 ③琉球の自然（動物編） ④琉球の自然（植物編） ⑤博物館

昭和53年

1月28日（土） 沖縄の神酒 参加者55名

講 師 平敷令治氏（沖国大教授）

①王朝時代の酒 ②王朝時代の嚼酒「ミキ」
③近代以降の「ミキ」

2月25日（土） 自然観察会「首里末吉の植物」
参加者70名

講 師 多和田真淳氏（植物研究家）

末吉宮近辺の植物観察会。

3月25日（土） 沖縄の原始農耕について
—考古学的な面からのアプローチ—
参加者40名

講 師 新田重清学芸員

①現在の研究成果 ②農耕の始まりと発展
③農耕をめぐる問題点



沖縄県立博物館だより 3、4号

(2). 広報・出版

博物館の諸事業は出版物とマスコミによって紹介している。昭和52年度の刊行物は『沖縄県立博物館年報』第10号、『沖縄県立博物館紀要』第4号（調査研究報告）、『沖縄県立博物館収蔵品目録』Ⅲ、『平敷屋朝敏文集上』、「博物館だより」第3、4号、リーフレットとなっている。

文化講座・特別展などの催し物は県庁広報課、県下のラジオ・テレビ・新聞各社に報道依頼状を出し、一般への通知、取材を頼んでいる。



沖縄県立博物館年報第10号

(3). 資料紹介

資料の利用、内容についての問い合わせは電話、郵便、面接などいろいろあり、その都度学

芸員が応答している。そのほか、沖縄県教育委員会機関誌『教育沖縄』に各学芸員が「博物館名品（資料）紹介」と題して記事を連載している。

第22号（昭和52年6月発行）

尚家本「おもろさうし」 上江洲 均

第23号（昭和52年8月）

世界最古の化石「コレニア」 大城 逸朗

第24号（昭和52年10月）

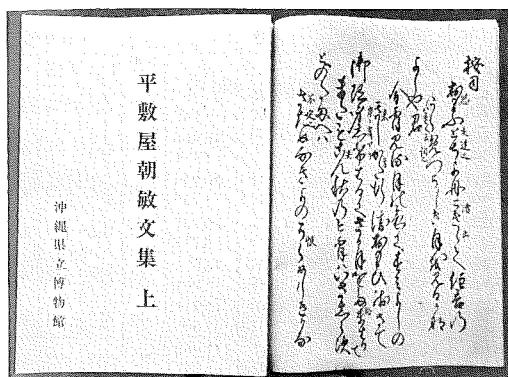
紺地松竹梅文様紅型風呂敷 渡名喜 明

第25号（昭和52年12月）

うやんまあの図 宮城 篤正

第26号（昭和53年2月）

類須恵器 新田 重清



平敷屋朝敏文集上

入館者数

月別入館者数

上段: 入館者総数

下段: 無料扱い内訳

項目 月	個人				団体				合計				開館日数	1日平均
	大人	学生	小中高生	計	大人	学生	小中高生	計	大人	学生	小中高生	計		
52年 4月	5,711	528	757	6,996	870 (186)	0	394	1,264 (186)	6,581 (186)	528	1,151	8,260 (186)	25	330
	5,245	145	613	6,003	1,971 (484)	0	1,529 (8)	3,500 (492)	7,216 (484)	145	2,142 (8)	9,503 (492)	25	380
	3,224	113	510	3,847	2,420 (1,087)	56	1,315 (119)	3,791 (1,206)	5,644 (1,087)	169	1,825 (119)	7,638 (1,206)	22	347
	4,478	756	1,078	6,312	874 (270)	269	445	1,588 (270)	5,352 (270)	1,025	1,523	7,900 (270)	24	329
	6,702	1,234	2,504	10,440	1,093 (128)	532	1,149	2,774 (128)	7,795 (128)	1,766	3,653	13,214 (128)	26	508
	3,090	378	436	3,904	418 (91)	67	597 (27)	1,082 (118)	3,508 (91)	445	1,033 (27)	4,986 (118)	23	217
	5,320	190	648	6,158	2,409 (395)	0	1,235	3,644 (395)	7,729 (395)	190	1,883	9,802 (395)	26	377
	9,138 (1,458)	387 (34)	1,965 (843)	11,467 (2,335)	2,039 (569)	231 (8)	6,885 (277)	9,155 (854)	11,154 (2,027)	618 (42)	8,850 (1,120)	20,622 (3,189)	25	825
	3,081 (51)	120	417	3,618 (51)	1,025 (411)	443	1,172 (38)	2,640 (449)	4,106 (462)	563	1,589 (38)	6,258 (500)	22	284
	4,422 (42)	72	306	4,800 (42)	359	72	174 (12)	605 (12)	4,781 (42)	144	480 (12)	5,405 (54)	19	284
	6,285 (45)	383	1,004 (4)	7,672 (49)	1,392 (31)	22	310 (7)	1,724 (38)	7,677 (76)	405	1,314 (11)	9,396 (87)	23	409
	8,795 (42)	1,302	1,242 (6)	11,339 (48)	1,367 (20)	30	2,217 (54)	3,614 (74)	10,162 (62)	1,332	3,459 (60)	14,953 (122)	26	575
計	65,491 (1,638)	5,608 (34)	11,480 (853)	82,579 (2,525)	16,237 (3,672)	1,722 (8)	17,422 (542)	35,381 (4,222)	81,728 (5,310)	7,330 (42)	28,902 (1,395)	117,960 (6,747)	286	412

曜日別入館者数

上段: 総数

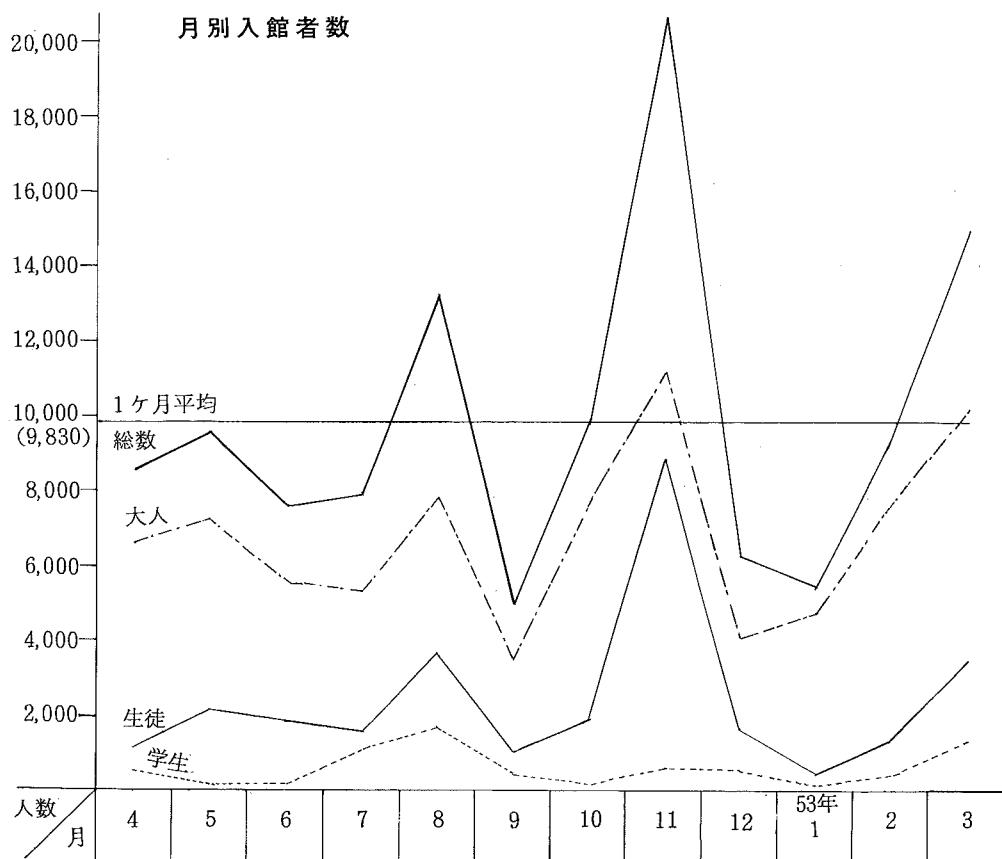
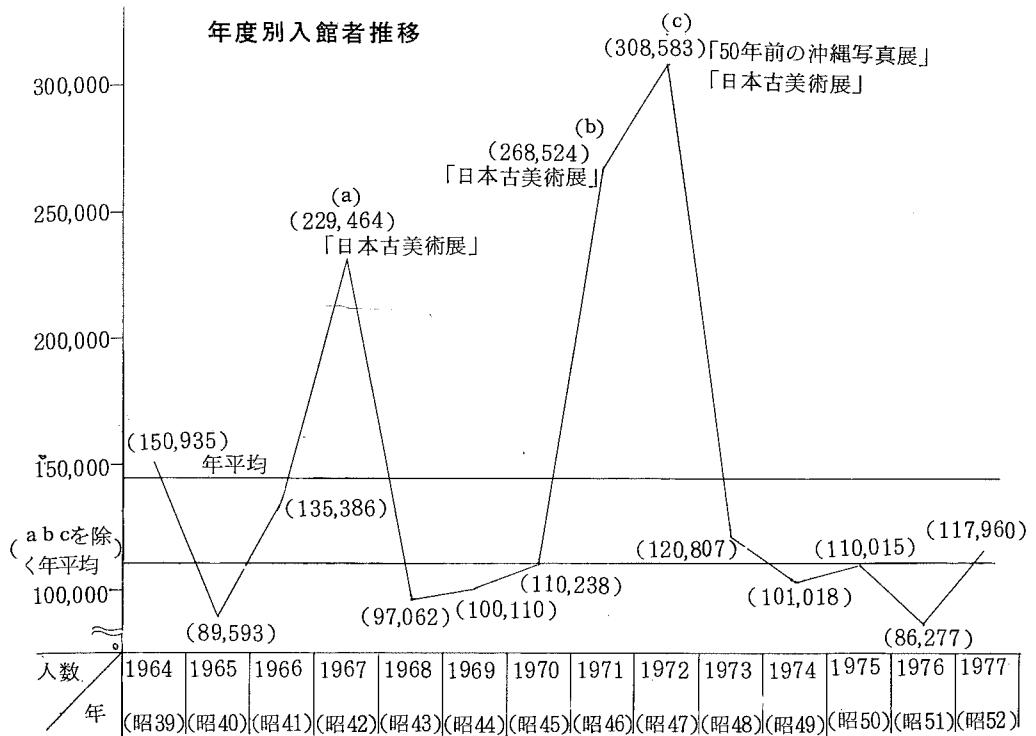
下段: 無料扱い内訳

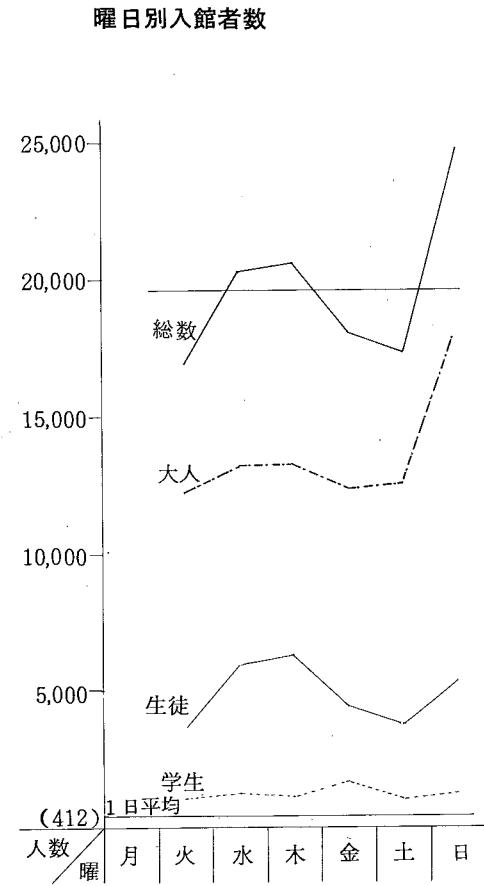
項目 曜日	個人				団体				総数				開館日数	1日平均		
	大人	学生	小中高生	計	大人	学生	小中高生	計	大人	学生	小中高生	計	個人	団体	計	
月	13,577 (28)	813	3,646	18,036	4,608 (28)	399 (563)	1,664 (8)	6,671 (60)	18,185 (631)	1,212 (591)	5,310 (8)	24,707 (659)	49	368	136	504
火	10,235 (22)	817	1,264	12,316	2,006 (22)	276 (437)	2,368 (12)	4,650 (449)	12,241 (459)	1,093 (459)	3,632 (12)	16,966 (471)	47	262	99	361
水	10,783 (40)	1,041	1,260	13,084	2,373 (50)	197 (500)	4,641 (186)	7,211 (686)	13,156 (540)	1,238 (540)	5,901 (196)	20,295 (736)	48	273	150	423
木	11,399 (1,462)	875 (34)	2,138 (843)	14,412 (2,339)	1,817 (744)	234 (744)	4,139 (132)	6,190 (876)	13,216 (2,026)	1,109 (34)	6,277 (975)	20,602 (3,215)	47	306	132	438
金	9,345 (60)	1,103	1,206	11,654	3,053 (60)	569 (776)	2,798 (145)	6,420 (921)	12,398 (836)	1,672 (836)	4,004 (145)	18,074 (981)	47	248	137	385
土	10,152 (26)	959	1,966	13,077	2,380 (652)	47 (652)	1,812 (7)	4,239 (659)	12,532 (678)	1,006 (678)	3,778 (7)	17,316 (685)	48	272	88	361
計	65,491 (1,638)	5,608 (34)	11,480 (853)	82,579 (2,525)	16,237 (3,672)	1,722 (8)	17,422 (542)	35,381 (4,222)	81,728 (5,310)	7,330 (42)	28,902 (1,395)	117,960 (6,747)	286	289	123	412

団体入館者数

含む無料入館者数

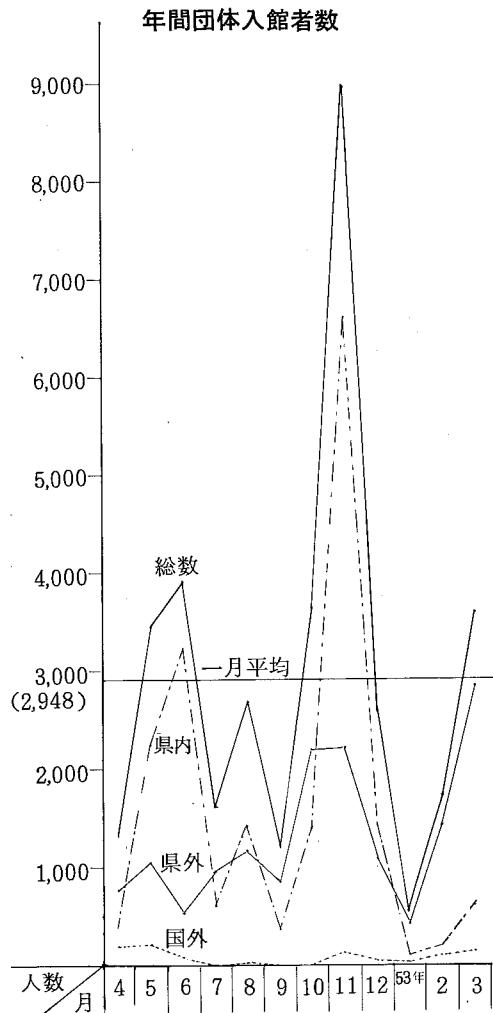
項目 月	県内				県外				国外(含、沖縄県在住外国人)				総計						
	小中高生	学生	大人	計	小中高生	学生	大人	計	小中高生	学生	大人	計	団体数	人員	人員				
52年 4月	2	52	8	316	10	368	1	218	13	562	14	780	3	104	2	89	5 193 29 1,341		
	19	1,061	23	1,151	42	2,212	2	244	19	805	21	1,049	8	211	8	211	71 3,472		
	28	1,746	1	25	30	1,496	59	3,267	1	38	2	80	10	432	13	550	2 88 74 3,905		
	4	108		13	516	17	624	2	224	3	249	15	500	20	973	1	22	45 1,597	
	2	853		14	636	16	1,489	2	78	4	162	22	932	28	1,172	1	22	45 2,683	
	4	132		6	224	10	356	4	514	1	32	9	315	14	861		24	1,217	
	13	958		10	498	23	1,456	3	281		34	1,917	37	2,198		60	3,654		
	64	5,880	4	60	17	696	85	6,636	4	859	2	84	20	1,271	26	2,214	1	10	5 139 116 8,989
	9	978		7	485	16	1,463	2	404	2	177	7	511	11	1,092	1	52	28 2,607	
	3	115		1	36	4	190		2	63	32	1,383	34	1,446	3	79	1 35 15 588		
	3	154		2	83	6	243	15	625	10	1,760		27	1,083	37	2,843	2	103	1 20 3 123 55 3,591
	計	158	12,336	7	168	135	6,297	300	18,801	31	4,620	17	921	218	10,075	266	15,616	25 823	5 141 30 964 596 35,381





入館者数

昭和 52 年度（昭和 52 年 4 月～53 年 3 月）の総入館者数は 117,960 人。これは 51 年度より 31,683 人多く、前年度比で 37 % 増である。団体入館者数では、県内 26 % 増、県外 76 % 増、国外 56 % 増になる。構成比では県内 53 %（昨年度 61 %）、県外 44 %（37 %）、国外 3 %（2.5 %）である。この比率を個人入館者数にあてはめると、県内 12 % 増、県外 58 % 増になり、増加した総入館者数 3 万余のうち 2 万余は県外からの来館者となる。これはおりからの観光ブームで来県者が増え、それにともない入館者も



増えたものと思われる。県外の入館者年間 5 万余人は、年間観光客の約 4 % であり、他府県の方々に沖縄県の歴史と文化等をより良く理解してもらうためには、もっと多くの人々に当館へ足をはこんでもらうよう、はたらきかける必要があろう。また県内の年間入館者数は、昨年より 1 万余増えて 6 万 2 千余人。これは県人口の約 6 % であり、当館が地域の社会教育機関として機能するには、いますこし少ない数字かと思う。これからもより大きな吸引力を持った魅力ある博物館とすべく、我々は努力しなければならない。

資料

1. 収蔵資料現在高

昭和53年3月31日現在

分類 受理次第	購入	寄贈	収集	保管	計
絵画 A	55	50	1	•	106
書跡 B	77	73	49	5	204
彫刻 C	11	22	163	•	196
建築 D	4	17	•	•	21
陶磁 E	416	637	256	502	1,811
染織 F	761	186	12	•	959
漆器 G	161	129	114	•	404
金工 H	10	47	19	•	76
歴史 I	3	37	2	•	42
貨幣 J	25	492	86	•	603
楽器 K	4	32	•	•	36
装身具 L	62	35	14	•	114
民俗 M	437	1,152	63	73	1,725
考古 N	36	500	174	•	710
武器・武具 O	•	17	•	•	17
戦争資料 P	111	4	•	•	115
自然 X	32	56	1	•	89
計	2,205	3,562	919	580	7,238

2. 昭和52年度収蔵資料

分類 受理次第	購入	寄贈	収集	保管	計
絵画 A	3	2	•	•	5
書跡 B	1	5	•	5	11
陶磁 E	•	125	•	•	125
染織 F	2	3	•	•	5
漆器 G	•	6	86	•	92
歴史 I	3	7	2	•	12
貨幣 J	•	28	84	•	112
民俗 M	33	219	9	•	261
考古 N	•	455	176	•	631
戦争資料 P	•	1	•	•	1
自然 X	•	35	1	•	36
計	42	844	437	5	1,291

3. 新収蔵資料内訳

(1) 購入の部

分類	名 称	数 量	分類	名 称	数 量
染織	紺地牡丹文様藍型風呂敷	1	絵画	長嶺華国筆「芭蕉菊の図」	1
"	紺地菖蒲鴛鴦文様藍型風呂敷	1	歴史	18世紀中国・日本地図	2
民俗	竹製品「かめ型花籠」ほか 32点	33	書跡	徐藻光書軸物(隸書)	1
絵画	山田真山筆「寒山拾得」	1			
"	比嘉盛清筆「琉球人男女之図」	1			

(2) 寄贈の部

分類	名 称	数 量	寄 贈 者	住 所
民俗	煙 管	1	仲宗根 孝 尚	那霸市
"	手まり(カーアクセサリー1点)	3	伊礼マシ代	嘉手納町
"	ザグリ	1	沖野千照雄	鹿児島県知名町
陶磁	味噌甕	1	大西照雄	名護市
"	飴釉碗ほか1点	2	池田三四郎	長野県
"	刺身皿ほか7点	8	安村文	那霸市
書跡	硯	1	比嘉正実清	"
民俗	トウイグチ(椿油搾器)	1	大嶺実鉄夫	"
"	荒焼御殿型厨子甕ほか3点	4	安座間鉄ヨシシ	"
"	算盤ほか1点	2	金城ヨヨシ	"
"	ワタ入り着物	1	中村恒英	"
"	アイロンほか3点	4	大見謝篤正	"
"	ツルハシ	1	宮城秀夫	浦添市
"	ワラジ	1	仲宗根秀夫	島嶼市
"	香炉	1	鎌倉芳太郎	U.S.A.
書跡	バジルホール「大琉球航海記」他1点	2	知念盛一	東京都
"	安国山樹華木記碑(拓本)	1	金城ヨシ治	東風平村
陶磁	獅子面付鉢	1	丸尾裕治	那霸市
"	龍貼付文壺ほか4点	5	丸尾春興	北海道
自然	鉱物藍晶石ほか17点	18	宮城春興	那霸市
漆器	家紋入り朱塗盃台	1	大原とみ子	鹿児島県宇検村
民俗	ヒラ	1	新城ナヲル	渡嘉敷村
"	アサンザニ	1		

分類	名 称	数 量	寄 贈 者	住 所
民 俗	アサンザニ	1		那覇 市
"	牛の鞍ほか2点	3	与那覇 清 友	"
"	ミーゾーキー	1	安 村 文	"
"	ヒ ラ	1		"
"	かめ ほか1点	2	宮 城 春 興	"
"	ハブグワー	2	宮 城 篤 正	浦 添 市
"	ハブグワー	1	金 城 ヨ シ 作	那覇 市
歴 史	日本の古地図その他1点	2	中 川 伊 都	京 都 市
民 俗	御殿型厨子甕ほか5点	6	大 城 マ 敏	西 原 村
"	古たんす	1	普 天 間 敏	佐 敷 村
"	マ グ	1	与那覇 清 友	那覇 市
陶 磁	シャム南蛮甕ほか82点	83	乾 純 之 助	鹿児島県 德之島町
漆 器	朱塗丸盆ほか4点	5	"	"
民 俗	弁当重ほか115点	116	"	"
"	ティール(うけ)	3	玉 城 武 太	糸 満 市
"	竿はかりほか4点	5	豊 村 フ サ 子	那 観 市
戦争資料	飯ごう	1	"	"
民 俗	ビ ク	1		"
"	う け	1		名 護 市
"	御殿型厨子甕ほか5点	6	比 嘉 正 子	沖 繩 市
"	御殿型厨子甕	2	渡 久 地 政 輝	石 川 市
陶 磁	しごん	1	西 村 富 雄	那 観 市
自 然	三葉虫	1	喜 屋 武 真 荣	沖 繩 市
書 跡	江戸上り琉球人名簿	1	白 井 弘 和	東 京 都
民 俗	漆喰つき臼	1	宜 保 安 昌	那 観 市
自 然	珪化木	1	知 念 繢 三	"
絵 画	裸 婦	1	伊 江 力 ネ	鹿 児 島 市
陶 磁	湯こぼしほか10点	11	小 橋 川 永 昌	那 観 市
"	小 皿	12	新 垣 栄 三 郎	"
民 俗	御殿型厨子甕	1	樺 山 憲 一	"
"	アサンガニ	1	平 良 敏 一 子	大 宜 味 村
"	八重山帆船の模型	1	桃 原 用 信	那 観 市
絵 画	龍潭池畔 (大嶺政寛筆)	1	(財) 沖縄財團	東 京 都
陶 磁	しごん	1	金 城 昌 太 郎	那 観 市
民 俗	御拌領位牌ほか9点	10	識 名 ヨ シ	"

分類	名 称	数量	寄 贈 者	住 所
民 俗	ウルマンチャー	2	仲 真 良 英	勝連村
"	アイロン	1	宮 城 静 子	"
"	木槌ほか2点	3	喜 瀬 乘 時	那霸市
染 織	インドネシア産イカット	1	高 宮 広 衛	"
"	紅型型彫用小刀ほか1点	2	城 間 栄 喜	"
歴 史	沖縄県管内全図	1	滝 泽 荘 二	東京都
自 然	アンモナイト、	2	大原英男・小久保英夫	北海道
"	ペレムナイト(箭石)	1	大森 昌 衛	東京都
"	大型有孔虫ほか9点	10	西 川 功	広島県
歴 史	燕都商榜図	1	ジョージ・H・ケア	U. S. A
"	明治39年発行の PASS PORT	2		名護市
"	沖縄県全図	1	新 城 加 那	宜野湾市
民 俗	アサリグイ	1	新 納 武 二	鹿児島県 瀬戸内町
貨 幣	寛永通宝	28	城 島 豊 正	糸満市
考 古	国頭村辺戸クビー採集品	1	宇 栄 原 宗 夫	
"	宇佐浜貝塚採集品	1括	文化財保護委員会	
"	仲泊出土土器	1	ワ ト ソ ン	U. S. A
"	宜野座出土品	2	島 袋 安 紀	
"	地荒原貝塚採集品	1括		
"	開元通宝	3	B. Bird	U. S. A
"	仲宗根貝塚採集品	1件	真 栄 城 玄 德	
"	勝連城跡出土石器	2	ベ 一 カ 一	U. S. A
"	勝連城跡発掘遺物	1括		
"	久米島太田辻出土石器	14		
"	沖縄各地採集石器	92	ワ ト ソ ン	U. S. A
"	中城城跡の瓦	4	花 城 清 由	宜野湾市
"	旧普天間官使用の瓦	2	"	"
"	石垣諸島表採の石器と石片	1括	ジョージ・H・ケア	U. S. A
"	名蔵海岸採集品	1括	"	"
"	波照間アタンシ遺跡採集品	1	"	"
"	北山城採集品ほか52件	53件	多 和 田 真 淳	那霸市
"	ブシノヤ遺跡採集品ほか141件	142件	ジョージ・H・ケア	U. S. A

分類	名 称	数量	寄 贈 者	住 所
民 俗	ウルマンチャー	2	仲 真 良 英 子	勝連村
"	アイロン	1	宮 城 静 子	"
"	木槌ほか2点	3	喜 濑 乘 時	那覇市
染 織	インドネシア産イカット	1	高 宮 広 衛	"
"	紅型型彫用小刀ほか1点	2	城 間 栄 喜	"
歴 史	沖縄県管内全図	1	滝 泽 荘 二	東京都
自 然	アンモナイト、	2	大原英男・小久保英夫	北海道
"	ペレムナイト(箭石)	1	大 森 昌 衛	東京都
"	大型有孔虫ほか9点	10	西 川 功	広島県
歴 史	燕都商榜図	1	ジョージ・H・ケア	U. S. A
"	明治39年発行の PASS PORT	2		名護市
"	沖縄県全図	1	新 城 加 那	宜野湾市 鹿児島県 瀬戸内町
民 俗	アサリグイ	1	新 納 武 二	
貨 幣	寛永通宝	28	城 島 豊 正	糸満市
考 古	国頭村辺戸クビ一採集品	1	宇 栄 原 宗 夫	
"	宇佐浜貝塚採集品	1括	文化財保護委員会	
"	仲泊出土土器	1	ワ ト ソ ン	U. S. A
"	宜野座出土品	2	島 袋 安 紀	
"	地荒原貝塚採集品	1括		
"	開元通宝	3	B. Bird	U. S. A
"	仲宗根貝塚採集品	1件	真 栄 城 玄 德	
"	勝連城跡出土石器	2	ベ 一 カ 一	U. S. A
"	勝連城跡発掘遺物	1括		
"	久米島太田辻出土石器	14	ワ ト ソ ン	U. S. A
"	沖縄各地採集石器	92	花 城 清 由	宜野湾市
"	中城城跡の瓦	4	"	
"	旧普天間官使用の瓦	2	"	"
"	石垣諸島表採の石器と石片	1括	ジョージ・H・ケア	U. S. A
"	名蔵海岸採集品	1括	"	"
"	波照間アタンシ遺跡採集品	1	"	"
"	北山城採集品ほか52件	53件	多 和 田 真 淳	那覇市
"	ブシノヤ遺跡採集品ほか141件	142件	ジョージ・H・ケア	U. S. A

(3) 収集の部

分類	名 称	数 量
民 俗	茶盆ほか 8 点	9
漆 器	朱塗蓋付椀ほか 85 点	86
貨 幣	寛永通宝、鳩目錢等	84
歴 史	琉球三省並三十六島図ほか 1 点	2
考 古	伊是名貝塚採集石器ほか 175 件	176 件
自 然	アンモナイト化石を含む石版	1

(4) 移管の部

分類	名 称	数 量
書 跡	印 鑑	5

4. 新収蔵図書

(1)、購入の部

書名	著編者	書名	著編者
美術館	長谷川栄	日本標準化石図譜	森下晶
韓国美術史	金元龍	古生物学各論 第一巻	大森昌衛編
日本古代穀物史の研究	鎌方貞亮	" 第二巻	"
炭素による年代測定	遠藤邦彦	陶磁器大系 第30巻	田中豊太郎
先史学の基礎理論	鈴木公雄訳	" 第35巻	水野清一
地方史と考古学	甘粕健編	" 第37巻	佐藤雅彦
考古資料の見方(遺跡編)	"	" 第38巻	小山富士夫
" (遺物編)	"	" 第40巻	杉村勇造
古代文化の謎をめぐって	上田正昭他	" 第41巻	矢部良明
手漉紙史の研究	関義城編	" 第42巻	藤岡了一
日本古文書学	伊木壽一	" 第45巻	斎藤菊太郎
書道辞典	飯島春敬	" 第46巻	杉村勇造
原色染織大辞典	板倉寿郎編	最近那覇市産業住宅地図	沖縄光文社
新日本動物図鑑(下)	岡田要編		

(2)、寄贈図書の部

書名	寄贈者	書名	寄贈者
沖縄の統計No.39~47	県企画調整部統計課	資料館だより第10~12号	船橋市郷土資料館
県民所得統計報告書(50年度)	"	関東の博物館第1号	関東地区博物館協会
沖縄観光速報第69~82号	沖縄観光特信社	ちばの博物館3~6号	千葉県博物館協会
開拓記念館だよりvol.5 No.2~5	北海道開拓記念館	郷土資料館第16回展示資料 観覧の手びき	船橋市郷土資料館
道立美術館だより第35~36号	北海道立美術館	" 第17回展示資料 観覧の手びき	"
神奈川県立博物館だより No.1~4	神奈川県立博物館	石川県美術館だより第33~35号	石川県美術館
佐世保市 文化科学館友の会だより	佐世保市文化科学館	博物館だよりNo.26~29	市立旭川郷土博物館
青森県立郷土館だよりNo.1~4	青森県立郷土館	資料館だよりNo.1~2	読谷村立歴史民俗資料館
長崎県立美術博物館だより No.28~33	長崎県立美術博物館	北海道立美術館友の会だよ り第8号	北海道立美術館友の会
鹿児島県明治百年記念館 建設調査室だより	明治百年記念館 建設調査室	郷土資料館だより第25~26号	石川県立郷土資料館
青函トンネル記念館だより No.10~12	北海道立青函 トンネル記念館	佐世保市文化科学館だより No.1~2	佐世保市文化科学館
岐阜県博物館だより vol.1 No.1~2	岐阜県立博物館	前田利常と小松の歴史展	小松市立博物館
市立美術館だよりNo.10~11	鹿児島市立美術館	北海道開拓記念館 調査報告書14~15号	北海道開拓記念館
美術館だより第135~144号	和歌山県立 近代美術館	秋吉台科学博物館報告第12号	秋吉台科学博物館

書名	寄贈者	書名	寄贈者
奈良国立文化財研究所年報1977	奈良国立文化財研究所	国立科学博物館研究報告 A類(動物学)第2卷第4号、第3卷第1~3号	国立科学博物館図書課
石垣市立八重山博物館々報創刊号	石垣市立八重山博物館	"	"
沖縄県天然記念物調査 シリーズ第8集 ノグチゲラ実態調査報告書(3)	県教育庁文化課	B類(植物学)第2卷第4号、第3卷第1~3号	"
" 第9集 塩川動態調査報告Ⅲ	"	"	"
" 第10集 鹿佐次湾のヒルギ林実態 調査報告書	"	C類(地質学・古生物学)第2卷第4号、第3卷第1~3号	"
" 第11集 ケラマジカ実態調査報告書	"	通信博物館75年史	通信博物館
南島の古歌謡	小野重朗	大宰府史跡	九州歴史資料館
文化福島1977年4月~12月	福島県文化センター	片江辻遺跡	福岡市教育委員会
岡山民俗第121~125号	岡山民俗学会	四箇周辺遺跡	"
奈良、平安時代の生活と文化 アマミノクロウサギの 緊急調査報告書	和歌山県立紀伊風土記の丘資料館	有田周辺遺跡調査概報	"
沙羅書房古書目録16号	鹿児島県教育委員会	広石古墳群	"
発掘された戦国の城下と港	沙羅書房	席田遺跡群	"
奄美方言分類辞典上巻	石川県立郷土資料館	教育沖縄20~23号	県教育委員会
枕島山遺跡調査報告書	長田須磨	鹿児島民俗第66、67合併号	鹿児島民俗学会
戦国武将展	佐賀県立博物館	昭和51年度博物館職員研究 協議会報告	日本博物館協会
全国私立美術館所蔵作品、 作家別目録 工芸・書	埼玉県立博物館	第16回九州高等学校理科教 育研究会沖縄大会要項	県高等学校理科教育研究会
あなたの科学技術第26~28号	文化庁文化部 文化普及課	釧路市立郷土博物館々報 No.240~246	釧路市立郷土博物館
競馬記念館	科学技術庁 振興局普及啓発課	浦和市立郷土博物館々報 8~10号	浦和市郷土博物館
校註琉球藩ニ於ケル糖業政策	社団法人馬事文化財団	佐賀県立博物館報No.33~38	佐賀県立博物館
日本の船	天野鉄夫	新潟県美術博物館報 昭和50年度	新潟県美術博物館
" (汽船の歴史)	財団法人日本海事科学振興財団	安房博物館報14号	千葉県立安房博物館
歴史資料館収蔵資料 目録第6集	福島県文化センター	徳島県博物館々報No.27~28	徳島県博物館
神奈川県博物館協会々報 第37~38号	神奈川県博物館協会	京都国立博物館年報 昭和50年度	京都国立博物館
博物館ひろばNo.21~22	"	久能山東照宮博物館報	久能山東照宮博物館
奄美郷土研究会報第17号	奄美郷土研究会	平塚市所蔵美術品目録	平塚市博物館
平良市の文化財	平良市教育委員会	本土に於ける民間デザイン 保護機関の現状	県産業デザイン振興会
観音菩薩	奈良国立博物館	法政大学沖縄文化 研究所々報第8~9号	法政大学沖縄文化研究所
旅のしおり東日本、西日本 季刊科学の眼 第44巻	公立学校共済組合本部	人間博物館リトルワールド ニュースNo.7~10	財団法人リトルワールド
自然科学と博物館第1~4号	国立科学博物館図書課	造形ニュースNo.186	開 隆 堂
		秋田県博物館ニュースNo.4~7	秋田県立博物館
		伝工指ニュースNo.1~3	県立伝統工芸指導所
		山形県立博物館ニュース 第35~40号	山形県立博物館

書名	寄贈名	書名	寄贈名
岡山県総合文化センター ニュースNo.149~158	岡山県総合文化センター	茨城県歴史館だよりNo.9~11	茨城県歴史館
奈良県立美術館だより 第7~8号	奈良県立美術館	建設準備ニュース8~9号 昭和51年度 北海道立美術館年報	名古屋市教育委員会 北海道立美術館
版画センターニュース	現代版画センター	沖縄産業振興会 沖縄産業振興会	県産業デザイン振興会
埋蔵文化財ニュース7~12	奈良国立文化財研究所 埋蔵文化財センター	国立科学博物館ニュース9号 北九州市立美術館ニュース 美術の森No.9~12	国立科学博物館 北九州市立美術館
国立博物館ニュース1~12月	東京国立博物館	埼玉県立博物館紀要3	埼玉県立博物館
やちむん6.7号	やちむん会	史料館報第26~27号	国立史料館
紅型と藍型	サントリーミュージアム	北海道開拓記念館 研究年報第5号	北海道開拓記念館
金石文の話	船橋市郷土資料館	成田靈光館報なりたNo.15~16	成田山史料館
国立民族学博物館研究報告 第2巻第2~4号1977	国立民族学博物館	東北歴史資料館報第7~8号	東北歴史資料館
婦人画報10月号	婦人画報社	長崎市立博物館々報第17号	長崎市立博物館
沖縄戦記録写真集 日本最後の戦い	月刊沖縄社	武蔵野美術大学 資料館々報No.6~7	武蔵野美術大学
貝塚博物館調査資料 第3集加曾利貝塚III	千葉市加曾利貝塚博物館	昭和50年度奈良 県立美術館年報	奈良県立美術館
第4集 " IV	"	昭和50年度 佐賀県立博物館年報No.7	佐賀県立博物館
現代美術の鳥瞰 (明日を探る作家たち)	京都国立近代美術館	大阪市立自然史博物館々報	大阪市立自然史博物館
やきもの2,西日本編	山と溪谷社	琉球絆の基本単位集	県工芸振興センター
高尾自然科学博物館研究 報告第8号	東京都高尾自然 科学博物館	福井市立郷土歴史 博物館々報第2~3号	福井市立郷土歴史博物館
宮古郷土史研究会々報 No.7~11	県立図書館宮古分館	山形大学附属郷土 博物館々報	山形大学附属郷土館
山口県の自然第4巻第6~7号	山口県立博物館	青森県立郷土館報第4号	青森県立郷土館
議会時報第17~21号	県議会	埼玉県博物館だより17~21	埼玉県立博物館
琉球漆工芸	徳川義宣	民俗文化162~173号	滋賀民俗学会
公済時報8月号	公立学校共済組合	資料図録No.7.9	郵政省通信博物館
Ecological Studies of Nature Conservation of the Ryukyu Islands(III)1977	池原貞雄	奈良県立民俗博物館だより vol. IV No.1~4	奈良県立民俗博物館
民俗学博物館要覧	国立民族学博物館	八重山植物の研究I~III	天野鉄夫
昭和52年度佐敷村文化財要覧	佐敷村教育委員会	ムゼイオン23号	立教大学
正木美術館出品目録 水墨画と上代の金石展	正木美術館	仲尾次政隆関係遺品 調査報告書	県教育委員会
相国寺旧寺域内 の発掘調査	成安女子短大	観光要覧	沖縄県
文部省関係法律の解説	県教育庁	伊丹市博物館解説目録第13号	伊丹市立博物館
教育沖縄号外(6)	県教育委員会	昆陽池生物目録	"
昭和52年度沖縄県の教育	"	沖縄社会教育史料第1集	東京学芸大学 社会教育研究室
岐阜県博物館ニュース	岐阜県博物館	喜如嘉の芭蕉布	講談社

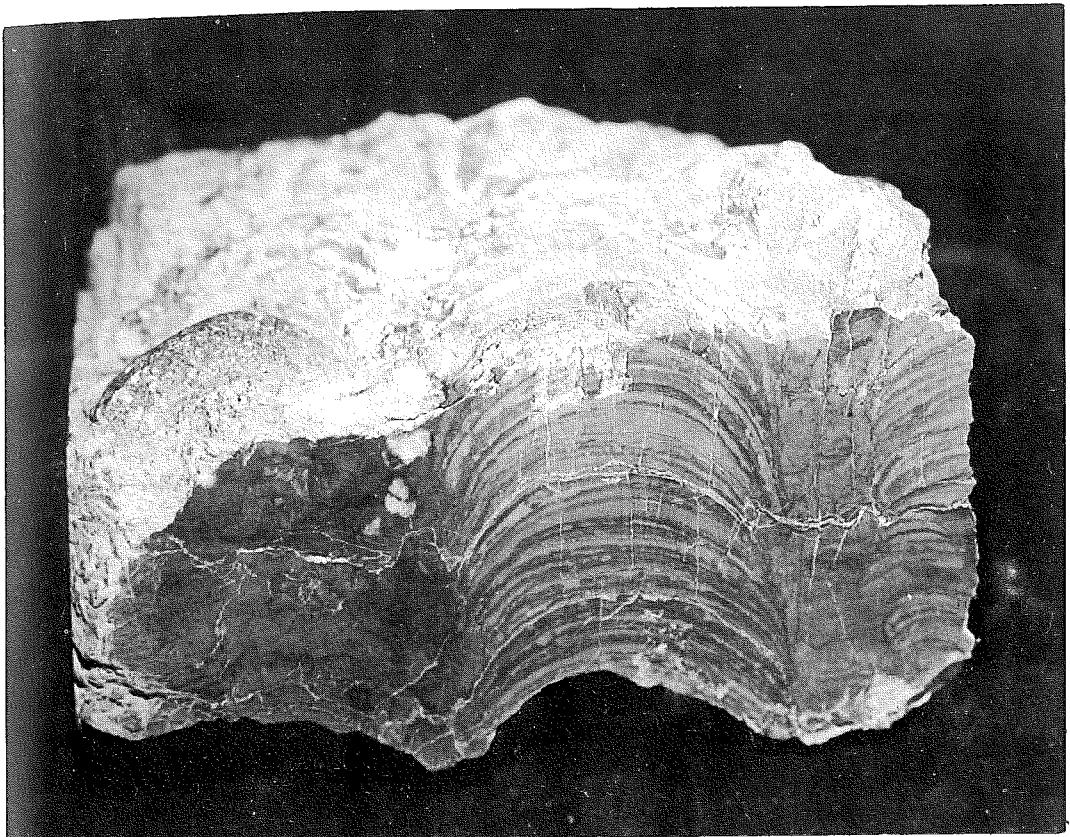
書名	寄贈名	書名	寄贈名
宮古島の史跡をたずねて	県立図書館宮古分館	樺原考古学研究所年報1974~1975年	奈良県立考古学研究所
今日の造成(織)	京都国立近代美術館	昭和52年度教育事務所要覧	那覇教育事務所
中華人民共和国現代美術	東京華僑縫会	長崎県立美術博物館研究紀要第3号	長崎県立美術博物館
太陽、染と織シリーズ、絹と紬	平 凡 社	東北の古墳	東北歴史資料館
日本における砂糖の歴史	原野農芸博物館	岡山民俗学会々報	岡山民俗学会
石橋美術館々報	ブリヂストン美術館	神奈川県埋蔵文化財調査報告13	神奈川県教育委員会
昭和史(13)繁栄と混迷	学習研究社	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告	福岡県教育委員会
月刊みんぱく 11~12月	国立民族学博物館	新原奴山古墳群	"
九州地域子供会育成研究協議会資料	県教育委員会	白口の民俗資料、久留米市文化財報告書第4集	久留米市教育委員会
木下美術館々報No.1	木下美術館	木塚遺跡久留米市文化財調査報告書第14集	"
沖縄歴史研究会々報No.1	沖縄歴史研究会	筑後国府跡、久留米市文化財調査報告書第13集	"
サラニップ市立函館博物館々報No.15	市立函館博物館	日本の民話16(沖縄)	研秀出版
紀伊風土記の丘年報第2~4号	紀伊風土記の丘管理事務所	養秀第3号	養秀同窓会
芸能の科学、芸能論考Ⅲ	東京国立文化財研究所芸能部	神奈川県立博物館年報昭和51年度	神奈川県立博物館
堀文庫蔵書目録	成城大学民俗学研究所	広報広聴の一年	県企画調整部広報課
展示図録、玉と布志名のやきもの	玉湯町立出雲玉作資料館	原始日本の再発見I、繩文の美と謎	学習研究社
宮崎県総合博物館年報 50.51年度	宮崎県総合博物館	太陽、コレクション地図 西海道、南海道	平 凡 社
自然史資料目録(鉱物編)	"	太陽、染と織シリーズ 友禅・小紋	"
名古屋市博物館準備年報51年度	名古屋市教育委員会	" 小袖・能装束	"
沖縄民俗一宮古平良市島尻西原村棚原報告	琉大民俗研究クラブ	鹿児島の自然	鹿児島県育英財団
" 一八重山石垣市宮良、中城村伊集報告	"	房総のあけぼの展示解説	市立市川博物館
柳田文庫蔵書目録	成 城 大 学	沖縄の行事料理	月刊沖縄社
太宰府園20年史	太 宰 府 国	" 自然(植物誌)	"
福島県文化センター月報 1~3月号	福島県文化センター	和歌山県知事大橋正雄先生を偲ぶ	内 烟 衣 料 K.K.
市立旭川郷土博物館月報 昭51年4月~52年3月	市立旭川郷土博物館	型 染	神 谷 栄 子
文化庁月報2月号	文 化 庁	瑞浪市化石博物館 友の会機関紙No.5~6	瑞浪市化石博物館
奈良県観光242~253号	奈良県観光新聞社	瑞浪市化石博物館研究報告第3	"
岡山県立博物館だより9~10号	岡 山 県 立 博 物 館	沖縄関係蔵書目録	鹿児島経済大学地域経済研究所
名古屋市博物館だより1号	名古屋市博物館	中華文化復興運動の実践 興廢目録	中華文化復興運動推行委員会秘書處編
沖縄文化研究4	法政大学沖縄文化研究所	第八期中国歴史学会史学集刊	中国歴史学会
島尻郡誌(続)	財団法人南部振興会	全国美術館ガイド	美術出版社
大和考古資料目録第5集	考 古 博 物 館	なすな原遺跡	なすな原遺跡調査会

書名	寄贈者	書名	寄贈者
九州の原始文様 美術館3	佐賀県立博物館 黙示社	埼玉県立博物館 展示解説、歴史I 正木美術館出品目録	埼玉県立博物館 正木美術館
久慶門遺構発掘調査報告書	県教育委員会	徐葆光中山傳信録(下)	県立図書館
南蛮、中川伊作焼個展	中川伊作	骨董百話	新潮社
茨城県歴史館報4	茨城県歴史館	世界の鳥の和名北アメリカの鳥 " ヨーロッパの鳥 " ドイツ篇 " オーストラリアの鳥	山階鳥類研究所
沖縄の戦後資料1945~1970	那覇市々史編集室	平塚市博物館年報第1号	平塚市博物館
大隅半島東部 有形民俗資料調査報告書 観光客アンケート集計年報 (昭和52年版)	鹿児島県明治百年 記念館建設調査室 那覇市役所経済部 観光課	沖縄の民俗創刊号~6号 77年市勢要覧那覇	県立読谷高校郷土 研究クラブ 那覇市企画部広報課
奉懸古絵馬と新絵馬	天理大附属 天理参考館	沖縄県史別巻	県教育委員会
アイヌのはれ着(上)	"	特別展古代のうつわ	静岡市立登呂博物館
鎌野目久米蔵 コレクション図録	秋田県立博物館	世界画報1977年5月号	国際情報社
勝平得之の作品と秋田	"	沖縄における食品使用上の 特殊性に関する研究	琉大教育学部家政科
いわき市埋蔵文化財調査 報告書第4冊輪山遺跡	いわき市教育委員会	雪国の民俗	青森県立郷土館
全国民俗博物館総覧	上江洲均	調査研究年報1976年第2号	"
二塚山遺跡群	佐賀県立博物館	郷土と博物館	鳥取県立博物館
小松市立博物館研究 紀要第12集	小松市立博物館	鳥取県立博物館研究 報告第14号	"
近代名工遺作展	"	" 年報	"
同志社中学校体育馆建設 予定地発掘調査概要	同志社大校地学術 調査委員会	隱花植物目録	"
同志社キャンパス内出土 の遺構と遺物	"	民俗資料目録	"
第31回新匠工芸展覧会図録	伊砂利彦	民俗特別展「日向の山と海 と川の生活」—山村生産用 具と漁労具—図録	宮崎県総合博物館
山形県高畠町大立洞穴	山形県立博物館	津山市史第二巻中世	津山市役所
那覇市史冊封使録関係 資料(原文編)	那覇市役所	秋田県の考古学	奈良修介
" (読み下し編)	"	福岡市埋蔵文化財調査報告書 第37集鶴町遺跡(本文)	福岡県教育委員会
沖縄県図書館協会誌 第7~8号	県立図書館	" (別冊)	"
大阪市立博物館研究紀要 第9冊	大阪市立博物館	九州歴史資料館年報	九州歴史資料館
" 館報No.16	"	海の総合雑誌ラメールNo.2~3	日本海事広報協会
高野松山	熊本県立博物館	民家集落	日本民家集落博物館
読谷村立歴史民俗資料館々報	読谷村立歴史 民俗資料館	恩地考四郎と「月映」	東京国立近代美術館
神奈川県立博物館 研究報告第7号	神奈川県立博物館		
花木園地区古墳群調査概報	和歌山県立紀伊風 土記の丘管理事務所		
ひげべら	天理大学 付属天理参考館		
中国古代の鏡	"		

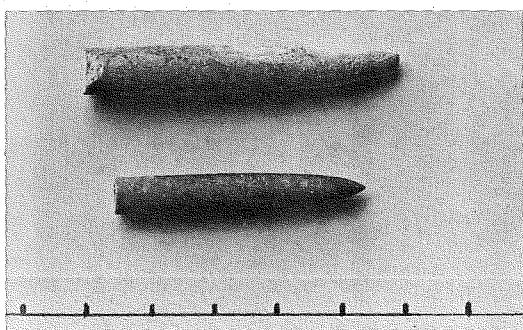
書名	寄贈者	書名	寄贈者
第10回東京国際版画 ビエンナーレ展 ジャガール展	東京国立近代美術館	東北歴史資料館研究年報 昭和51年度 北九州市文化財調査報告書 第23集屏賀坂遺跡	東北歴史資料館 北九州市教育委員会
ルフィーノ・タマヨ展	"	" 第24集椎木山遺跡	"
キュービズム展	"	山陽新幹線関係埋蔵文化財 調査報告第3集	福岡県教育委員会
安田觀彦展	"	" 第4集(上、下巻)	"
沖縄高校家庭クラブ 20周年記念誌	県高等学校家庭 クラブ連盟	漆器製造業実態調査報告書	県伝統工芸指導所
展示品図録	北九州歴史博物館	社会教育基礎資料	県教委社会教育課
元興寺佛教民俗資料研究所文化 財保存処理センター通信第1号	元興寺佛教民俗 資料研究所	京都国立近代美術館年報 昭和50年度	京都国立近代美術館
国立民族学博物館総合案内	国立民族学博物館	楊梅創刊号	県立コザ高等学校
" あらまし	"	沖縄の戦後教育史	県教育委員会
南島研究第18号	南島研究会	青森県の山樵用具	青森県立郷土館
東洋の漆工芸	東京国立博物館	沖縄県統計年鑑昭和51年度	県企画調整部統計課
別冊太陽海外へ流出した秘宝	平凡社	八重山文化第5号	八重山文化研究所
作品年鑑現代の日本の美術	美術俱楽部出版	山口県の博物館	山口県博物館協会
熊本史学第50号記念特集号	熊本史学会	福岡南バイパス関係埋蔵文 化財調査報告書第4~7集	福岡県教育委員会
日本の美術小事典	角川書店	柿原野田遺跡	"
沖縄県民俗分布図	県教育委員会	三輪町文化財調査報告書 第1~2集	三輪町教育委員会
備前の宮獅子探訪	本多静雄	横須賀市博物館々報No.23	横須賀市博物館
日本の美術No.128~139	至文堂	" 研究報告人文科学第20号	"
同志社大学校地内 遺跡調査概要	同志社大学	" " 自然科学第23号	"
田辺天神山弥遺跡調査報告	"	下北方地下式横穴第5号	宮崎市教育委員会
昭和52年春の青少年 育成県民運動実施要綱	県生活福祉部	愛媛大学トカラ・奄美群島 総合学術調査報告第1号	愛媛大学学術探検部
研究紀要9	武蔵野美術大学	探検第6号	"
人間博物館リトルワールド 展示企画構想書	リトルワールド 展示企画委員会	沖縄の自然(魚)	新星図書
昭和50年度図書館年報	琉大附属図書館	東京国立博物館紀要第12号	東京国立博物館
学内出版物論文総覧	"	宮城島シヌグ堂遺跡	与那城村教育委員会
北九州市立美術館年報 昭和49~50年度	北九州市立美術館	伊江島ナガラ原西目塚の 試掘調査	伊江村教育委員会
近代作家による洋画展	"	" ゴヘズ洞の調査	"
藤岡一遺作展	"	伊是名村文化財調査報告書 第1集志川島遺跡群 蔵品図録、第1集浮世絵 版画篇	教育委員会文化課
九州の奈良、平安陶磁	九州歴史資料館	秋田の昔話	奈良県立美術館
博物館研究第12巻第2~10号	日本博物館協会	秋田県立博物館研究報告第2号	秋田県立博物館
東北歴史資料館研究紀要第3号	東北歴史資料館		"

書名	寄贈者	書名	寄贈者
教育学部紀要第20集	琉球大学	仙台市博物館だよりNo.19	仙台市博物館
沖縄風俗絵画	月刊沖縄社	平良市史編集室だより第2号	平良市史編集室
琉球藍の醸酵建に関する研究	琉大農学部	浦和市立郷土博物館 研究調査報告書	浦和市立郷土博物館
ムラのなかま	東北歴史資料館	板付周辺遺跡調査報告書	福岡市教育委員会
青い海 1977年No.66~67	青い海出版社	県道505号線新設改良に伴う発掘調査報告書	"
創価学会ニュースNo.67~86	創価学会沖縄本部	第三回永青文庫展 能の面と装束	熊本県立美術館
明治村通信第76~89号	博物館明治村	これからの民具、民芸産業	沖縄総合事務局
あるくみるきくNo.118~130	日本観光研究所	軫苑(竹内理三)校訂、解説	太宰府天満宮文化研究所
見る116~126号	京都国立近代美術館	特別展宮崎の民具 (展示目録)	宮崎県総合博物館
MUSEUM 1~11月号	東京国立博物館	九州縦貫自動車道関係埋蔵 文化財調査報告書	福岡県教育委員会
自治おきなわ242~247号	沖縄県町村会	{IX} (本文編) {IX} (図版編) {IX} (付図編)	
第16回那覇市統計書	那覇市役所企画課	" (X)	"
苦小牧市文化財調査報告3~4	苦小牧市教育委員会	" (XI)	"
昭和50年度特別展 "きたのけもの" 目録	" 青少年センター	" (XII)	"
沖縄植物雑報	天野鉄夫	" (XIV) (本文編) " (XIV) (図版編)	"
第20回学校基本調査報告書	県教育委員会企画室	" (XI) (総輯編) " (XI) (付図)	"
沖縄教育年報	"	" (XV)	"
船橋の歴史(II)	船橋市郷土資料館	" (XVI) " (XVI) (付図)	"
船橋市郷土資料館 第15回展示資料観覧の手引	"	" (XIII)	"
郷土第15号(記念号)	沖縄大学沖縄学生 文化協会	" (VIII) " (VIII) (付図)	"
平良市史第5巻	平良市役所	沖縄教育(目次集)	那覇市史編集室
九州・沖縄の民間療法	岡本恵昭	沖縄学を民衆のなかへ 伊場遺跡発掘調査報告書 伊場遺跡遺構編	浜松市教育委員会
宮古島郷土史	砂川明芳	イタリア古版画展 15世紀から18世紀	京都国立近代美術館
古代文化財の科学第19号	東京国立文化財 研究所森八郎	釜利谷1(横浜市金沢区釜 利谷開発地区埋蔵文化財発 掘調査報告書)	横浜市教育委員会
句集雁門集	池上幸次郎	大韓民国の民族史的正統性	光明文化社
池上浩山人句集雁門集附録	"		
10年のあゆみ	県住宅供給公社		
沖縄振興開発	沖縄県総合事務局		
民俗学評論第15号	大塚民俗学会		
東京大学総合研究資料 館要覧	東京大学総合 研究資料館		
中国研究月報 1976年11~12月 1977年1,3月	中国研究所		
アジア経済旬報 1028~1040号	"		

5. 主なる新収蔵品写真



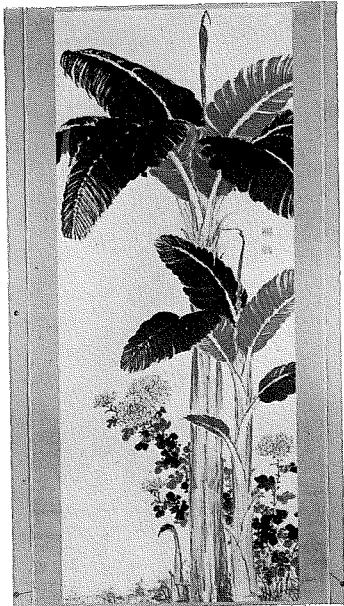
世界最古の化石『コレニア』
東ネパール産、丸尾裕治氏寄贈



ベレムナイト（箭石）
フランス産、大森昌衛氏寄贈



鉄礫 ザクロ石
東ネパール産、丸尾裕治氏寄贈



芭蕉菊の図
華国筆



男女の図
華山筆



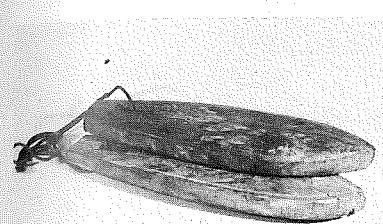
寒山拾得
山田真山筆



緑釉花文貼付獅子面耳付火鉢
(徳之島・乾純之助氏寄贈)
高さ 17.3 口径 19.2



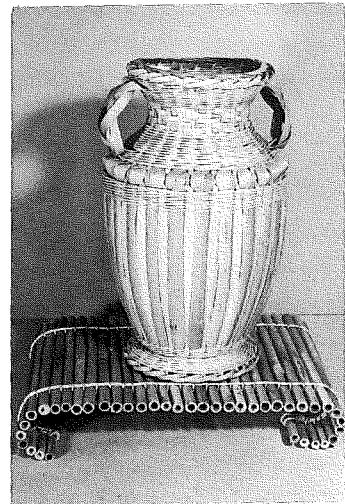
シャム南蛮甕
(徳之島・乾純之助氏寄贈)
高さ 62.0 口径 19.8



椿油しぶり器
(寄贈、大嶺実清氏)



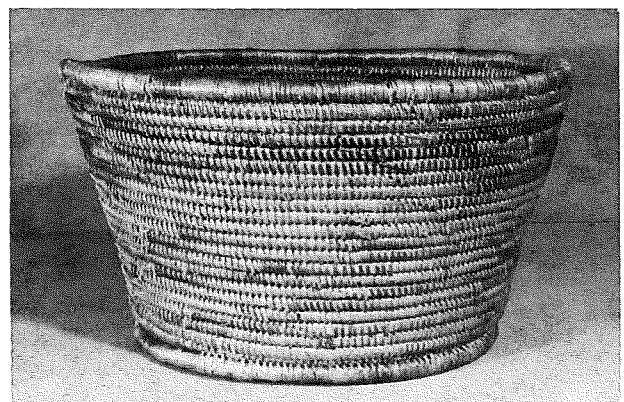
御拝領位牌
(寄贈・識名ヨシ氏)



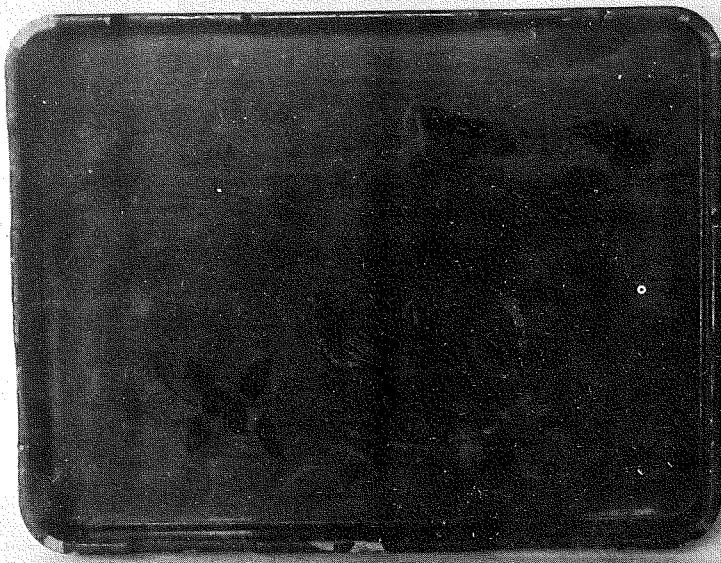
竹製花籠



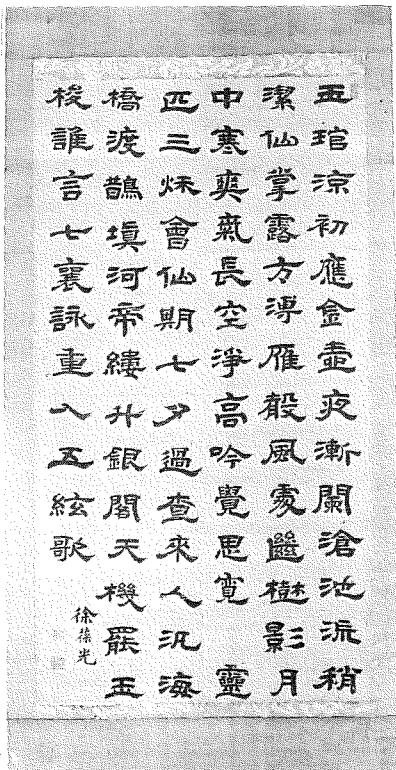
荒焼御殿型厨子壺
(寄贈・安座間鉄夫氏)



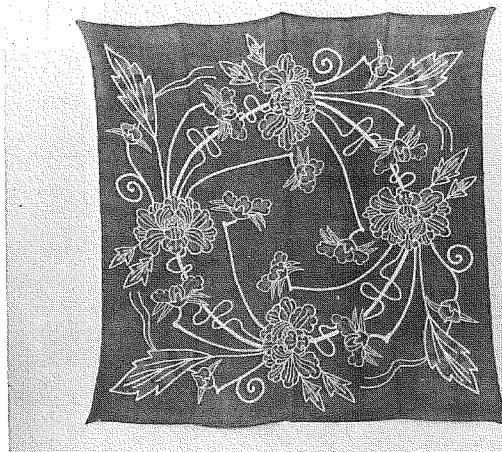
マグ (カヤ容器)
(寄贈・与那覇清友氏)



朱塗花鳥繪角膳（寄贈・乾純之助氏）



徐葆光書「隸書」



紅地牡丹文樣藍型風呂敷

沖縄県博物館協会（沖博協）結成さる

県内の博物館、資料館、美術館、民芸館、動物園、植物園の職員ならびにその関係者の切実な要望により、昭和52年7月8日、沖縄県立博物館において、沖縄県博物館協会（沖博協）結成大会が開催された。

当日は県内29の館園、関係機関の関係者50余名が出席、経過報告、会則審議、役員選出、報告、討議が行われた。会長には県立博物館長外間正幸氏、副会長に県立自然史博物館設立基本構想委員会長池原貞雄氏（琉大教授）と東南植物楽園園長李堅氏が選出された。

本協会結成の目的は、協会会則第2章にうたわれているように「沖縄県内における博物館等ならびにその関係者が相互に連絡提携することによって、博物館事業の振興を図り、もって地域文化の向上発展に寄与すること」であり、その目的を達成するために、「(1)博物館等の事業に関する調査研究と普及活動。(2)研究会、講演会、鑑賞会等の開催。(3)機関紙等の発行。(4)職員の研修および福利厚生。(5)その他前条の目的を達成するために必要な事業」を行うことである。

当日の報告は、読谷村立歴史民俗資料館長名嘉真宜勝氏と琉染研究員安里進氏の両氏が行った。名嘉真氏は学芸員の不在による調査、研究、資料収集等の限界と、施設が狭いために資料の保管、整理、展示あるいは教育普及活動が十分に行わないこと、また村の少ない予算では管理運営面に支障をきたしていること、したがって県や国の補助がほしい、などの点を強調した。安里氏は、私設の民芸館、資料館、動物園、植物園などがはたしている教育的役割を強調して、これらの施設に対する補助の必要性を訴えた。報告のあと、討議に移り、質疑応答、各館園の

実状報告が続き、討議は午後も引き続き行われた。

沖博協が発足して最初の職員研修会は昭和52年12月13日（火）、14日（水）の両日、県立博物館で実施された。研修会には加盟館園職員、個人会員など44名が参加し、「地域社会と博物館等」をテーマとして9つの報告と討論が行われた。報告題と報告者はつきのとおり。

1. 博物館と地域社会（中山良彦氏）
2. 読谷村立歴史民俗資料館の設立構想と現実（名嘉真宜勝氏）
3. 沖縄こどもの国の行事催し物について（嘉手納永周氏）
4. 觀光施設玉泉洞の博物館的性格づけをめぐって（山内平三郎氏）
5. 竹富蒐集館の設立経緯（上勢頭同子氏）
6. 八重山博物館の入館者分析（具志堅淑子氏）
7. 総合博物館としての沖縄県立博物館の問題点（渡名喜 明氏）
8. 沖縄貝類標本館のめざすもの（仲嶺俊子氏）
9. 東南植物楽園の教育的位置づけ（李堅氏）

報告のあと、活発な討議が行われた。2日目の午後は日本民芸館沖縄分館、伝統工芸館首里琉染、大嶺薰美術館の見学を行い、第1回沖博協職員研修会の全日程を修了した。

沖博協加盟の20余の館園はいずれも戦後設立されたものであり、各館園の横の連絡提携もなく、孤軍奮闘と試行錯誤によって運営され発展してきた。したがって各館園の設立経緯は、地域社会との関わりを抜きにしては考えられず、その問題点を報告し討議した今回の研修会はきわめて意義深い会合であった。

各館園は博物館事業において地域文化の中心的な役割を果すべく、今後この職員研修会を年

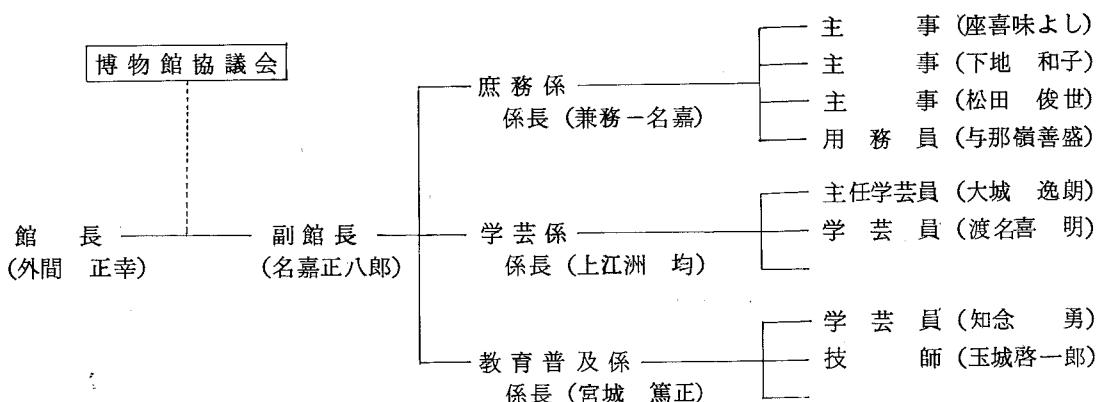
間2回実施して、資料収集、調査研究、展示、保管の面の研究を積み重ね、地域文化の向上発

展に、より寄与できる第一歩を踏みだした。

組織

沖縄県立博物館協議会

学識経験者	照外屋間	寛政	祐彰	県伝統工芸課長 那覇市史編集室長
学校教育関係者 (会長)	福田安次 地富里	昭朝 昭清	昭清	沖縄県教職員組合書記長 琉球大学教育学部教授 琉球大学教育学部教授 琉球大学理工学部教授
社会教育関係者	宮岸松池 里本村 宮城	利秀	悦実 実意	沖縄婦人会連合会長 元県議会文教厚生委員会委員長 沖縄タイムス社長 琉球新報会長



職員の動向

(1) 異動

庶務係長	新崎善清	県立教育センター庶務係長へ転出	53.4.1付
学芸員	新田重清	県立八重山高校教頭へ転出	53.4.1付
副館長 兼庶務係長	名嘉正八郎	県教委文化課主幹より	53.4.1付
学芸員	知念勇	〃専門員より	53.4.1付
学芸係長	上江洲均	学芸員	53.5.10付
教育普及係長	宮城篤正	学芸員	53.5.10付
主任学芸員	大城逸朗	学芸員	53.5.10付

沖縄県立博物館

沖縄県立博物館年報 No.11 (昭和 52 年度)

昭和 53 年 9 月 15 日発行

編集・発行 沖縄県立博物館

住所 沖縄県那覇市首里大中町 1 の 1

▼903 TEL : 0988-32-2243

印刷 (株) 丸正印刷社

住所 那覇市字国場 349-3

TEL : 0988-32-8484